アニマルセンター年報　第33号

福岡歯科大学 アニマルセンター

2015

2015 ANIMAL CENTER ANNUAL REPORT Vol. 33

FUKUOKA DENTAL COLLEGE

目　　次

アニマルセンター年報（第33号）表紙
年　報　目　次
はじめに　　アニマルセンター長　日高　真純　1
平成27年度アニマルセンター使用者講習会について　2
平成26年度実験動物慰霊祭の模様　3

平成26年度　アニマルセンター利用状況

1．　平成26年度　利用者数
1-1.　講座・月別利用者数（SPF室を含む）　4
1-2.　年間講座別延利用者数
1-3.　過去5年間の講座別延利用者数　5
1-4.　SPF室講座・月別延利用者数　6
1-5.　過去5年間のSPF室講座別延利用者数
2．　平成26年度　動物導入数
2-1.　動物・月別導入数（SPF室を含む）　7
2-2.　過去5年間の動物別延導入数
2-3.　分野別・月別動物延導入数（SPF室を含む）　8
3．　平成26年度　動物飼育数および使用数
3-1.　分野別・月別動物延飼育数　10
3-2.　SPF室分野別・月別動物延飼育数　11
3-3.　過去5年間の動物別延飼育数　12
3-4.　アニマルセンターで飼育した動物の系統　13
3-5.　アニマルセンターで使用した動物数　14

平成26年度　動物実験計画審査

平成26年度動物実験計画審査件数　16
（内訳）倫理基準によるカテゴリー分類別動物実験承認件数
過去5年間の動物実験承認件数　17

平成26年度 使　用　者　講　習　会

平成26年度使用者講習会の実施状況 18

過去5年間の使用者講習会の受講者数 20

平成26年度　アニマルセンターを利用した研究業績

動物を使用した過去5年間の年度別研究業績 21

平成26年度動物を使用した研究業績 23

平成26年度に取得された学位 27

平成26年度　アニマルセンターおよび委員会の活動状況と資料

アニマルセンター年表（平成26年度） 28

会議録（管理運営委員会・動物実験委員会・使用者会議） 29

平成26年度月別光熱水使用量 34

過去5年間の光熱水使用量の推移

福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則 35

動物実験およびアニマルセンター使用に必要な手続きの概略図 42

委員・職員の構成（センター管理職員・管理運営委員会・動物実験委員会） 44

編集後記 46

はじめに

アニマルセンター長　日髙　真純

福岡歯科大学アニマルセンターの年報３３号（2015 年）をお届けいたします。

センター長に就任いたしまして二期目を迎えました。今年度は８月まで補助職員としてご尽力いただいた霜出エイ子さんと渋谷由香さんに代わり、吉廣絹代、高橋章子、坂本知加子さんを新たにお迎えしました。センター副長の泉利雄准教授（歯科保存学分野）、事務職員の和才広輝係長、センター技能職員の山下貴成さん、事務補佐の松本富子さん、さらに技術職員の林憲久さんには前年度から継続して勤務頂いています。この新たな協力体制のもと、アニマルセンターの管理運営に取り組んでおります。皆様方におかれましては、お気づきの点がありましたら遠慮なくお申し出下さい。

今年度よりセンター２階の感染実験室ならびに感染飼育室の使用を再開いたしました。これによりマウスならびにラットを用いた動物感染実験を行うことが可能となりました。さらなる活発な研究が推進されることを期待します。ただし、感染実験室の使用に際しては、事前にそのための講習会を受講していただく必要があります。また、感染動物実験計画承認申請書を提出し、バイオセーフティー委員会において承認を受けていただく必要があります。遺伝子組換え動物を用いる場合には、法に基づいての拡散防止措置を遵守して実験を行ってもらう必要もあります。実験者の皆様は、これらの動物実験規則を十分に理解した上で実験を進めて頂くよう改めてお願い申し上げます。

昨年度より本学におけるアニマルセンター年報の公開は、社会へのより広い情報開示を意図して、ホームページ上に掲載し公開致しております。これからも「実験動物の飼養及び保管」と「動物実験」の双方が適正に行えているかの自己点検を的確に行い、センターの適正な管理運営に努めてまいりたいと思います。

実験動物は命あるものです。教育と研究の為にその尊い命を提供してくれた動物たちに改めて感謝の意を表したいと思います。

平成２７年度アニマルセンター使用者講習会について

アニマルセンター副長　泉　利雄
（実験動物委員会副委員長）

アニマルセンター新規利用予定者および利用資格更新者を対象にして、平成 27 年 5 月 21 日に使用者講習会を開催した。これは文部科学省告示第七十一号と本学動物実験規則の定める教育訓練の一環である。受講者は、新規で 15 名、更新で 16 名であった。

5 月 21 日の講習会の概要：

１．　日髙アニマルセンター長（動物実験委員長）から、「動愛法」や関連する告示と、平成 19 年改正の本学動物実験規則に対する理解と遵守についての説明がなされた。アニマルセンターの活発な利用を促しつつ、規則に則った利用手続きを利用者に喚起した。

２．　泉センター副長（動物実験副委員長）から動物実験の倫理及び動物実験に関連した諸規則並びに実験計画承認申請の手続きについて説明した。

１）　動物実験の３Ｒ（特に新規利用予定者に対して）と動物実験の立案ならびに計画承認申請方法。

２）　本学での諸規則と実験計画承認申請の概要。特に更新者への説明では、旧規則からの変更点に重点を置き、変更申請や終了届に関しても説明した。

３）　計画承認申請時の書式作成の雛形を示しながら説明した。３Ｒに対応した記載方法についても説明した。

３．　アニマルセンター山下技能職員から、アニマルセンター利用方法の概要及び新規利用予定者に対し、実験実施者登録申請の方法について説明した。

４．　和才事務職員から、オートロックキーを利用した入館の仕組み、飼育費について説明した。

平成26年度福岡歯科大学実験動物慰霊祭の模様

平成26年度（第39回）実験動物慰霊祭が、10 月 16 日（木）午後4時00分より、アニマルセンター玄関横の動物慰霊碑前にて、飯盛神社より神官2名を迎え、厳粛に執り行われました。

慰霊祭には、田中理事長、水田常務理事、本田常務理事、北村大学長をはじめ学園の役員、教職員、学園内外の実験動物関係者など 61名余りが参列されました。

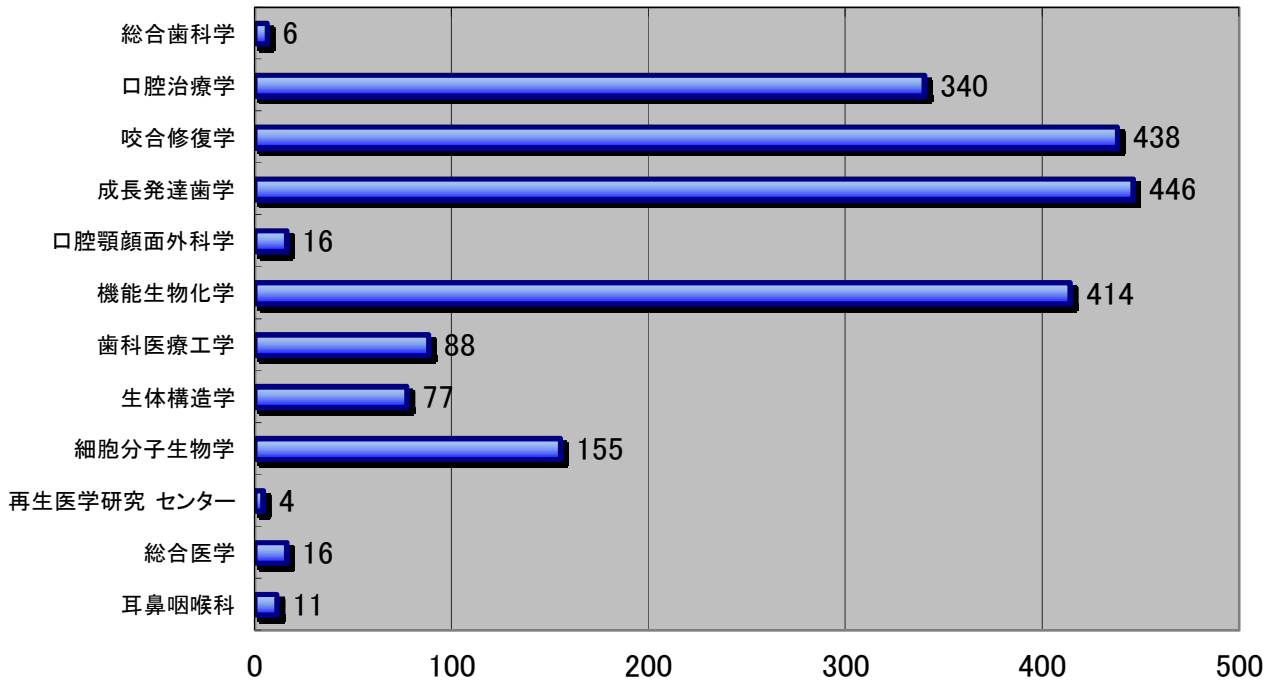
北村大学長から過去一年にわたり、医歯学の発展に寄与し、犠牲となった実験動物の霊に対し、深い敬意と感謝並びに哀悼の意を述べられました。

1．平成26年度　利用者数

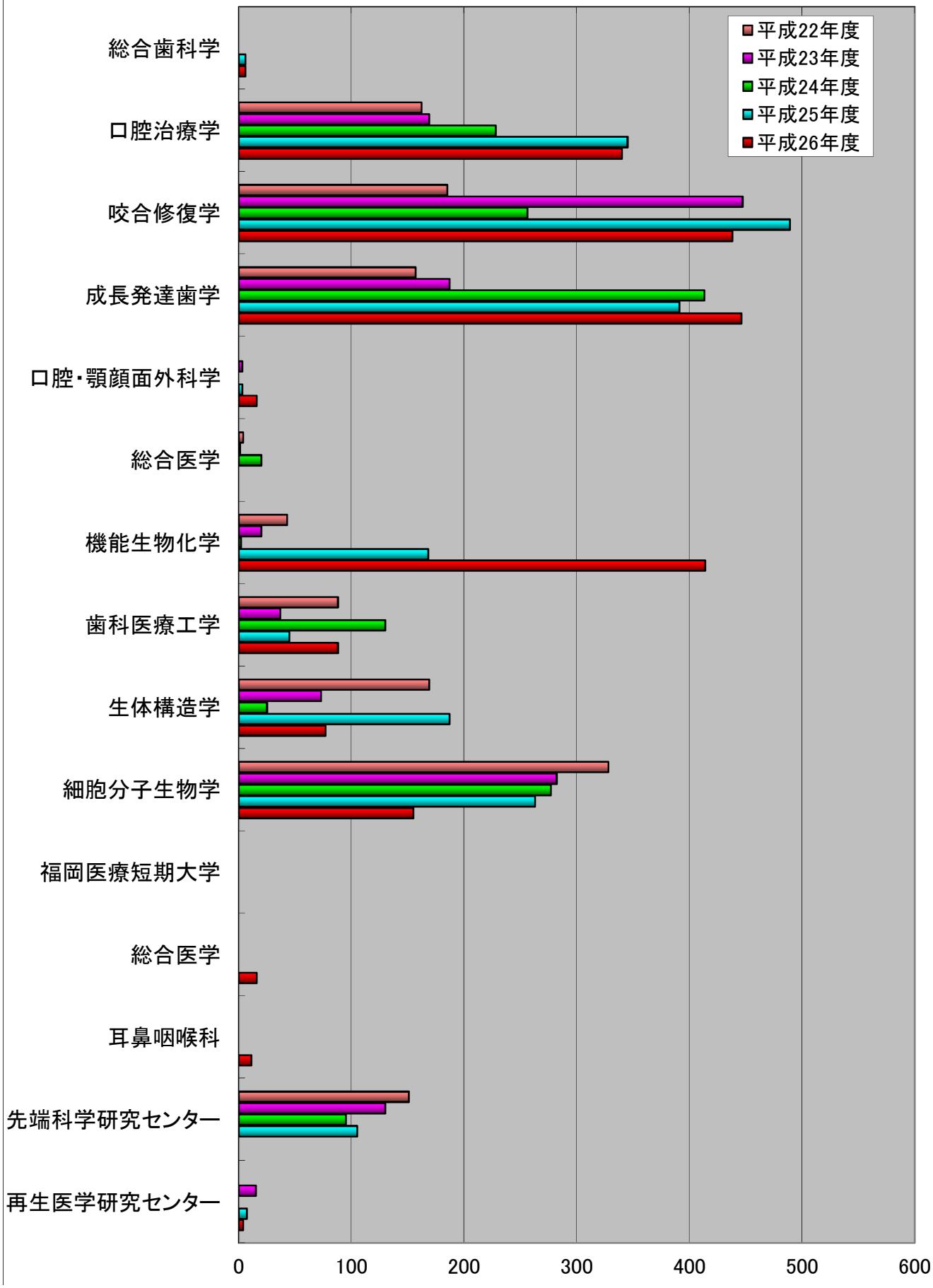
1-1．講座・月別利用者数（SPF含む）

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
総 合 歯 科 学	5		1										6
口 腔 治 療 学	32	31	22	26	25	17	27	29	33	26	34	38	340
咬 合 修 復 学	36	43	46	33	32	35	47	34	29	39	32	32	438
成長発達歯学	33	34	36	26	23	49	43	34	41	35	43	49	446
口腔顎顔面外科学								2			5	9	16
機能生物化学	42	36	41	46	39	41	49	27	33	34	26		414
歯科医療工学	2	3	2	1	2		3	28	22	8	10	7	88
生 体 構 造 学	17	5	5	14	9	5	4	2	4	6	6		77
細胞分子生物学	29	30	12	11	10	12	17	6	12	10	6		155
再生医学研究センター									4				4
総合医学								2	10	3		1	16
耳鼻咽喉科	1						1		1	2	5	1	11
合　計	197	182	165	157	140	159	191	164	189	163	167	137	2011

1-2．年間講座別延利用者数



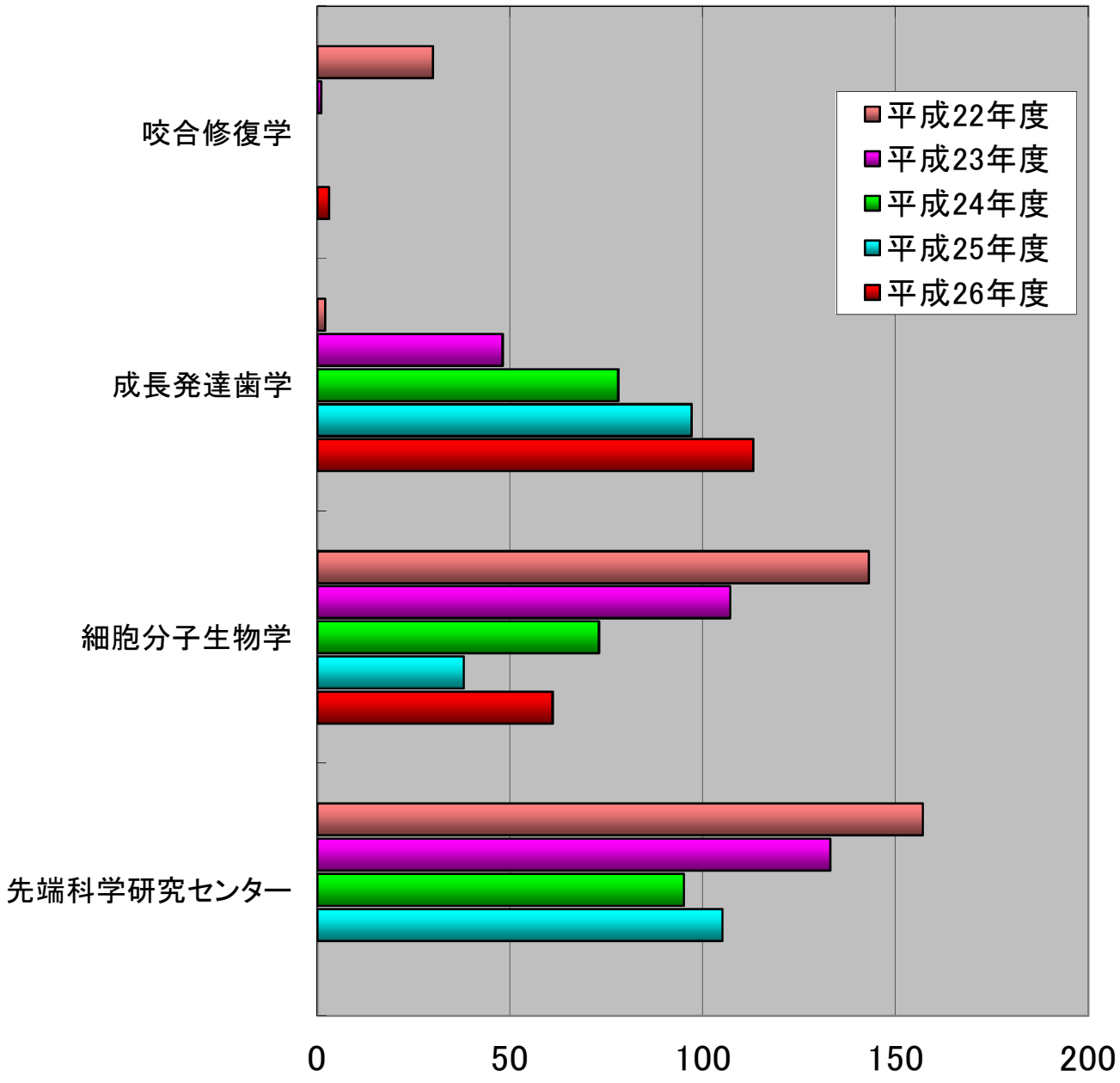
1-3. 過去5年間の講座別延利用者数



1-4. SPF室講座別延利用者数

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔治療学				1	3	1	7	10	8	3	7	7	47
機能生物化学	42	36	37	47	37	41	51	30	32	31	30	29	443
生体構造学		3	5	13	10	7	5	1	3	6	6	4	63
口腔インプラント学			3										3
成長発達歯学	13	8	9	10	14	5	11	7	7	14	11	4	113
細胞分子生物学	13	9	9	3	6	5	4	3	4	2		3	61
合計	68	56	63	74	70	59	78	51	54	56	54	47	730

1-5. 過去5年間のSPF室講座別延利用者数

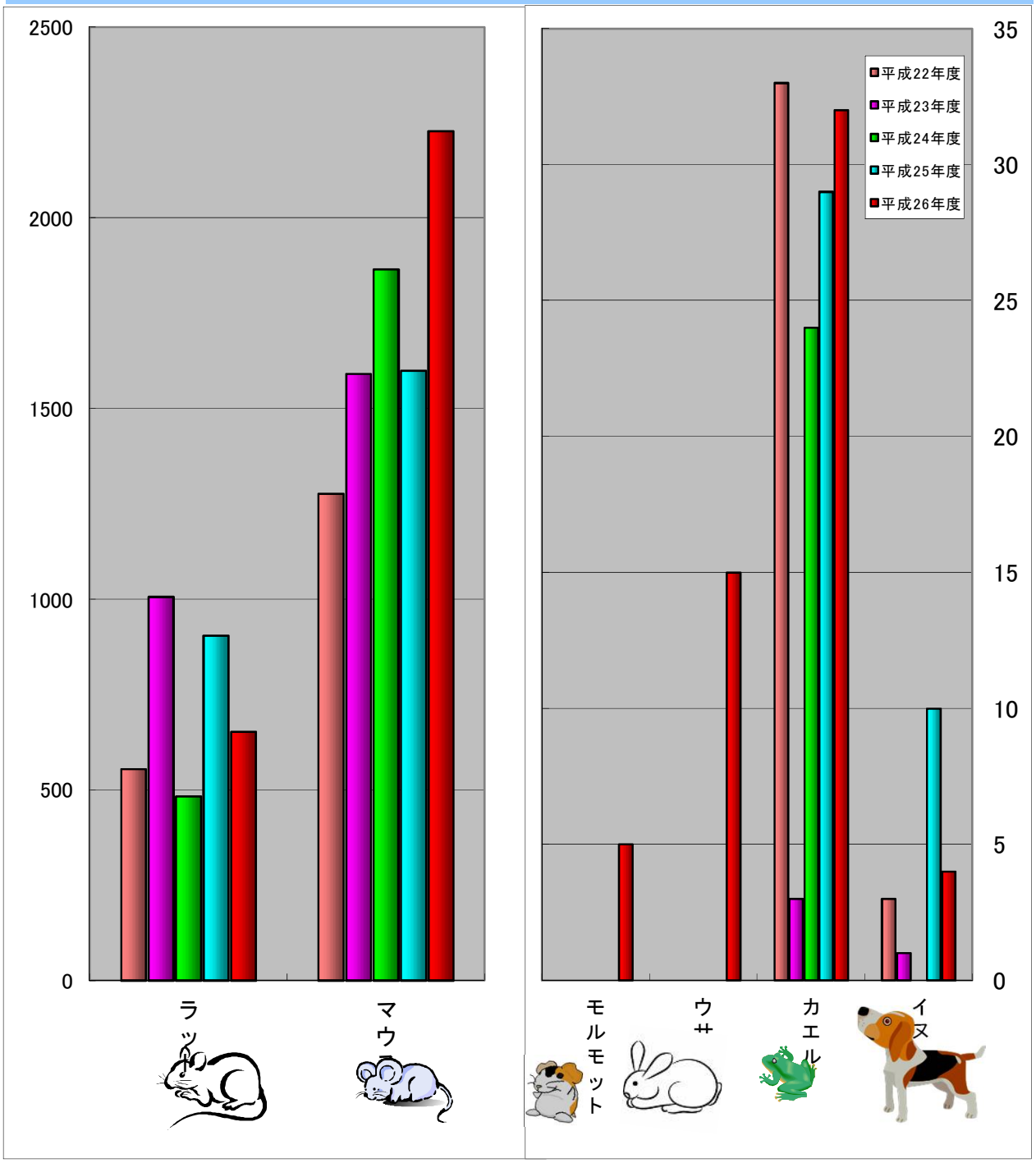


2. 平成26年度　動物導入数

2-1. 動物・月別導入数（SPF含む）

動物名＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ラット	86	62	50	43	32	14	63	38	121	33	68	43	653
マウス	221	271	181	233	124	224	244	181	83	194	121	151	2,228
モルモット							2				2	1	5
ウサギ								10			5		15
カエル	11	16	2				3						32
イヌ					3		1						4
合計	318	349	233	276	159	238	313	229	204	227	196	195	2,937

2-2. 過去5年間の動物別延導入数



2-3. 分野別・月別動物延導入数（SPFを含む）

1）ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	8			18	6				6		12	3	53
歯周病学	1									9	8		18
有床義歯学	10	12	12								12	12	58
口腔インプラント学						6	10		13				29
矯正歯科学				24	24		26		76				150
生体工学									24	10	12		46
材料工学											10		10
病態構造学													0
細胞生理学	6												6
分子機能制御学		6	2	1	2	2	6	2	2	2	2	2	29
再生医学研究センター	61	44	30			6	21	28		12	12	26	240
内科学								8					8
アニマルセンター			6										6
合計	86	62	50	43	32	14	63	38	121	33	68	43	653

2）マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学	34	30	26	38	6	41	41	26	13	20	10	24	309
有床義歯学	5	10	18		25								58
口腔インプラント													0
成育小児歯科学	49	27	28	37	24	41	55	14	7	42	20	39	383
感染生物学	58	26	69	103	55	58	77	43	40	47	53	38	667
材料工学								24					24
機能構造学	2	8		12		38	20	11	18	22	32	12	175
細胞生理学	7	38	17	43	14	46	41	63	5	63	6	28	371
分子機能制御学	66	132											198
再生医学研究センター							10					10	20
アニマルセンター			23										23
合計	221	271	181	233	124	224	244	181	83	194	121	151	2,228

3）モルモット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科							2				2	1	5
合計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	5

4)ウサギ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生　体　工　学								10			5		15
合　計	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	5	0	15

5)カエル

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
細　胞　生　理　学	11	16	2										29
分 子 機 能 制 御 学							3						3
合　計	11	16	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	32

6)イヌ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
再生医学研究センター					3		1						4
合　計	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4

3. 平成26年度　動物延飼育数

3-1. 分野別・月別動物延飼育数

1)ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	1,188	616	372	537	547	234	124	96	199	179	257	307	4,656
歯周病学	6	11								122	460	527	1,126
有床義歯学	411	509	420	327	24						150	772	2,613
口腔インプラント学	172	81	480			6	334	20	208	182			1,483
矯正歯科学	1,152	508		616	948	1,080	1,824	1,140					7,268
感染生物学													0
病態構造学	1,059	899	870	897	868	840	868	825	760	868	784	868	10,406
生体工学								552	914	954	204		2,624
材料工学		558	388	310	310	300	80				105	310	2,361
分子機能制御学	65	84	29	35	21	21	21	16	17	21	21	24	375
内科学								48	248	56			352
再生医学研究センター	3,871	4,077	3,779	3,614	2,695	2,078	2,432	2,336	2,270	1,395	960	1,514	31,021
アニマルセンター			58	124	124	124	124	120	124	124	112	80	1,114
合計	7,924	7,343	6,396	6,460	5,537	4,683	5,807	5,153	4,740	3,901	3,053	4,402	65,399

2)マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学								400					400
歯周病学	416	556	337	531	432	368	1,242	499	970	1,094	968	836	8,249
有床義歯学	157	143	221	62	346	180	186	6					1,301
口腔インプラント学													0
成育小児歯科学	30					17		3				14	64
感染生物学													0
材料工学		186	180	184	155	150	129	120	124	120	57		1,405
機能構造学	1,680	1,737	1,554	1,602	1,530	1,907	2,172	1,704	1,851	1,667	1,757	2,069	21,230
細胞生理学	480	953	1,050	1,327	848	90	42	55	24	6	62	31	4,968
分子機能制御学	363	660	99										1,122
再生医学研究センター	180						110	300	310	306	252	385	1,843
アニマルセンター	30	31	151	62	62	62	62	60	62	62	56	40	740
合計	3,336	4,266	3,592	3,768	3,373	2,774	3,943	3,147	3,341	3,255	3,152	3,375	41,322

3)モルモット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科							22	60	62	62	26	35	267
合計	0	0	0	0	0	0	22	60	62	62	26	35	267

4)ウサギ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科								170	275	100	15		560
合計	0	0	0	0	0	0	0	170	275	100	15	0	560

5)イヌ

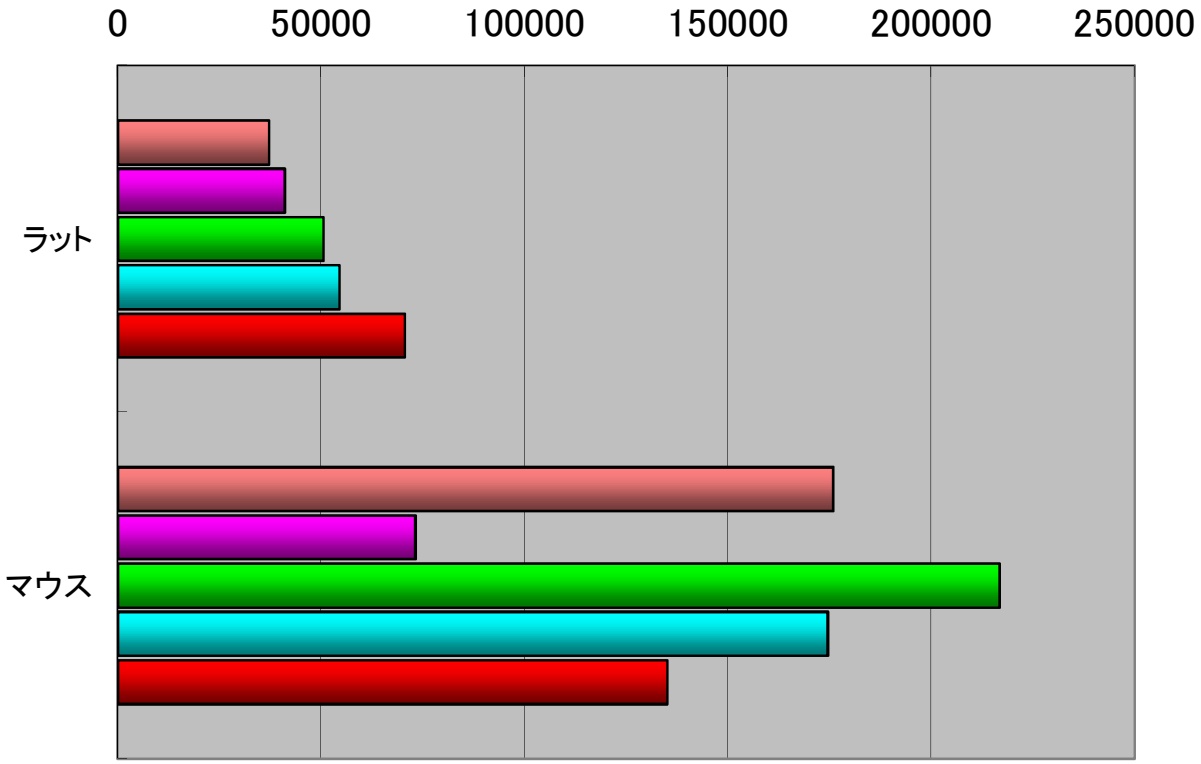
分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学	30	31	30	18	13	17							139
口腔腫瘍学													0
口腔外科学	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	112	104	1,440
再生医学研究センター	120	124	120	120	105	155	111	120	124	93	100	49	1,341
合計	270	279	270	262	242	292	235	240	248	217	212	153	2,920

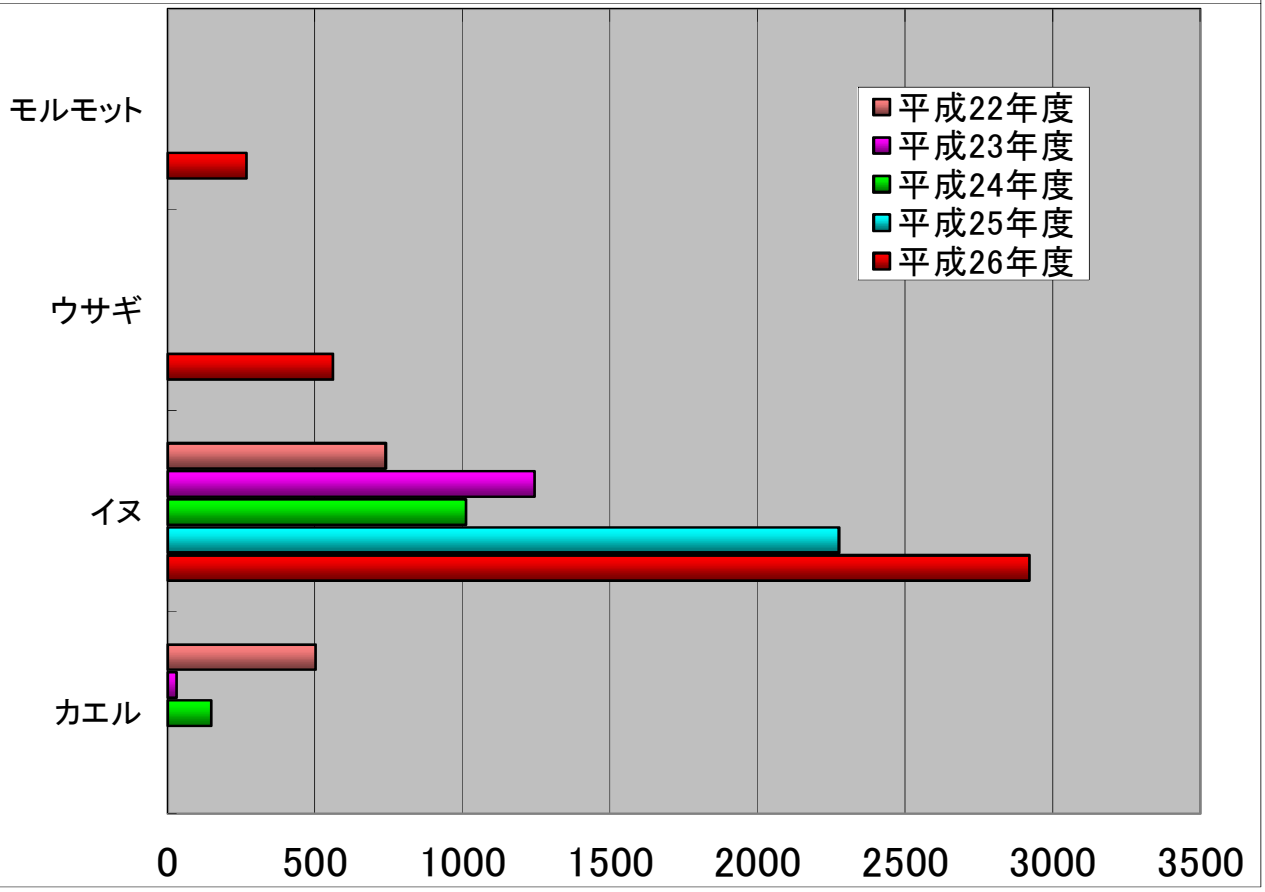
3-2. SPF室分野別・月別動物延飼育数

1)マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学				23	55	55	107	44	134	159	368	374	1,319
成育小児歯科学	1232	1257	1015	977	1,239	928	969	1,135	1,024	856	835	1,233	12,700
感染生物学	2,659	2,998	3,053	4,001	3,617	3,756	3,606	3,004	2,599	1,918	1,620	2,535	35,366
機能生物化学		155	150	247	508	478	837	726	704	1036	1131	1606	7,578
細胞生理学	4484	4460	5056	5465	5536	3935	4368	5371	6054	6177	5659	4793	61,358
合計	8,375	8,870	9,274	10,713	10,955	9,152	9,887	10,280	10,515	10,146	9,613	10,541	118,321

3-3. 過去5年間の動物別延飼育数





3-4. アニマルセンターで飼育した動物の系統

動　物　種	系　　統			
ラット	SD	Wistar	GK	
	BN	LEW		
マウス	ddY	BALB/c	OC	B6C3／GL
	C57BL/6	R26R	ICR	
モルモット	ハートレー			
ウサギ	JW			
イ　　ヌ	ビーグル			
カエル	ウシガエル			

3-5. 分野別・月別動物使用数（SPFを含む）

1）ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	23	8			6	6			1		12	2	58
歯周病学	1	1											2
有床義歯学	9	12	12	5	6						6	2	52
口腔インプラント学	5	3					6	10					24
矯正歯科学	13	12		6	22		24		38				115
生体工学								1	15	18	36		70
材料工学	2												2
病態構造学	30			1				3	1				35
細胞生理学													0
分子機能制御学	4	6	4	2	2	1	3	2	2	3	2	1	32
再生医学研究センター	28	39	50	38	29	22	29	9	48	24	7	54	377
内科学										8			8
アニマルセンター			2									2	4
合計	115	81	68	52	65	29	62	25	105	53	63	61	779

2）マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学	18	34	28	20		5	35	16	4		22	13	195
有床義歯学	20	6	20		21			6					73
口腔インプラント													0
成育小児歯科学	23	60	21	35	25	40	38	20				13	275
感染生物学	22	47	38	93	60	38	110	47	89	30	47	39	660
材料工学													0
機能構造学	2	7	1	5	5	9	21	32				3	85
細胞生理学	17	1	9	17	77	74	18	19	51	7	81	2	373
分子機能制御学	66	99	33										198
先端科学研究センター									25		24		49
再生医学研究センター				1			1			2	3	4	11
老化制御研究センター				17	8	6	18	11	13	1	21		95
アニマルセンター			22									1	23
合計	168	254	172	188	196	172	241	151	182	40	198	75	2,037

3）モルモット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳　鼻　咽　喉　科											3	1	4
合　計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4

4）ウサギ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生　体　工　学									5	5	5		15
合　計	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	0	15

5）カエル

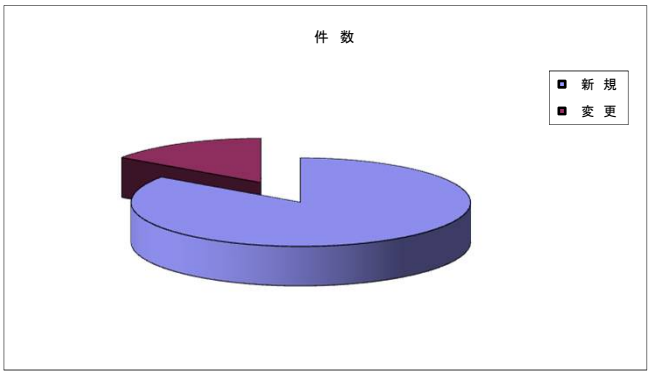
分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
細　胞　生　理　学	11	8	2										21
分 子 機 能 制 御 学							3						3
合　計	11	8	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	24

6）イヌ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学				1		1							2
口　腔　外　科　学												4	4
再生医学研究センター				1		2	1				1	2	7
合　計	0	0	0	2	0	3	1	0	0	0	1	6	13

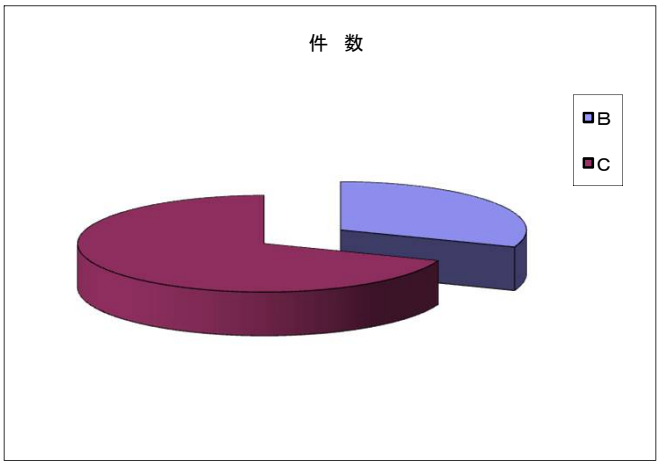
平成26年度　動物実験計画審査件数

実　験　審　査		件　数
内訳	新　規	22
	変　更	4
実験審査総数		26
実験承認件数		26

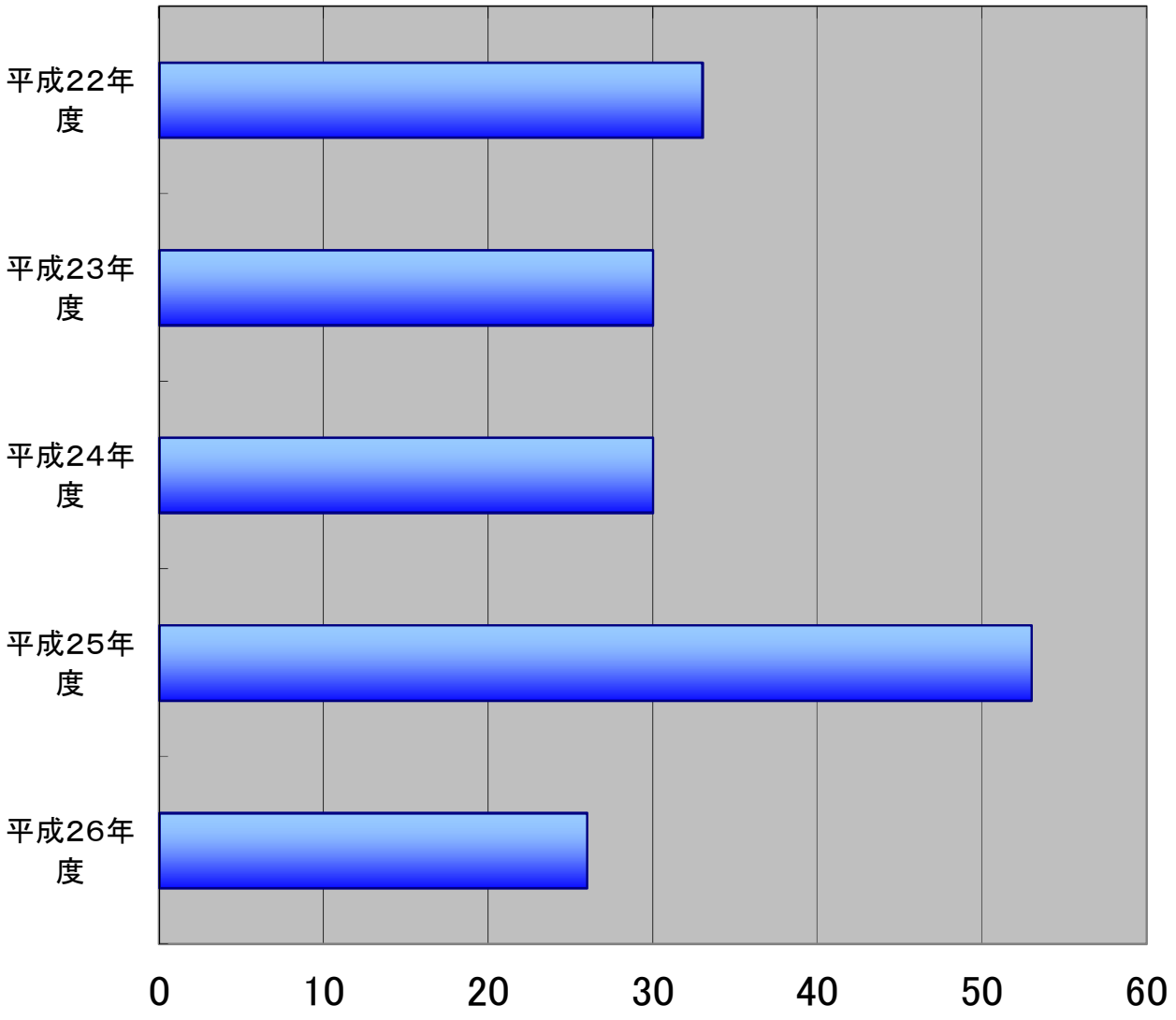


（内訳）倫理基準によるカテゴリー分類別

分　類	件　数
B	8
C	18
D	
合　計	26



過去5年間の動物実験承認件数



平成２６年度使用者講習会

１．第１回使用者講習会（更新対象者）
日　　時：平成２６年5月２８日（月）１８：30～１８：４５
場　　所：502講義室
受 講 者 数：２0名

２．第２回使用者講習会（新規対象者）
日　　時： 平成26年5月28日（月）１８：30～１９：１５
場　　所： ８０１講義室
受 講 者 数： １7名

３．第３回使用者講習会（更新対象者）
日　　時： 平成26年7月4日（金）１８：３０～１９：００
場　　所： ５０４講義室
受 講 者 数：４名

４．第４回使用者講習会（更新対象者）
日　　時： 平成２６年9月2日（火）１８：００～１９：００
場　　所： アニマルセンター
受 講 者 数：１名

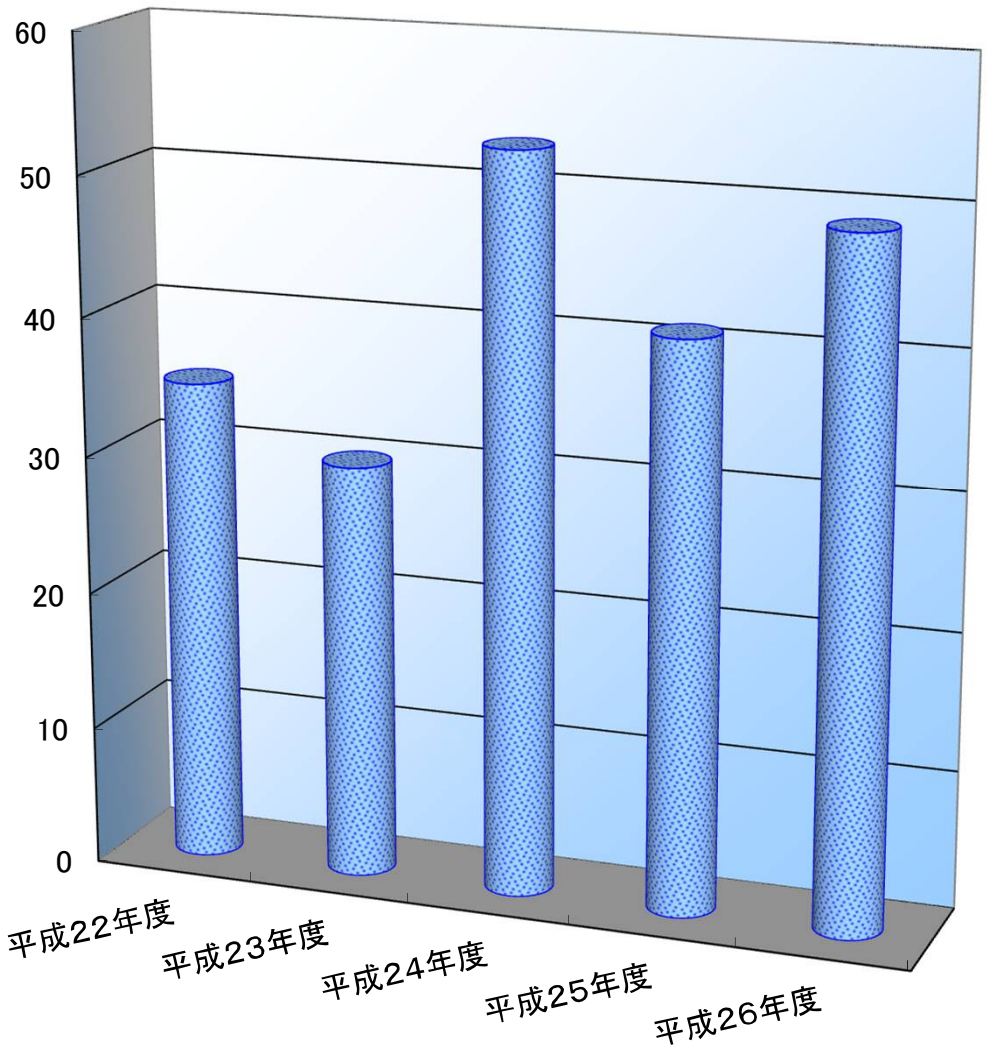
５．第５回使用者講習会（新規対象者）
日　　時： 平成２６年9月2日（火）１９：１５～２０：００
場　　所： アニマルセンター
受 講 者 数：１名

６．第６回使用者講習会（新規対象者）
日　　時： 平成２６年１０月１６日（木）１８：３０～１９：１５
場　　所： 第１会議室
受 講 者 数：６名

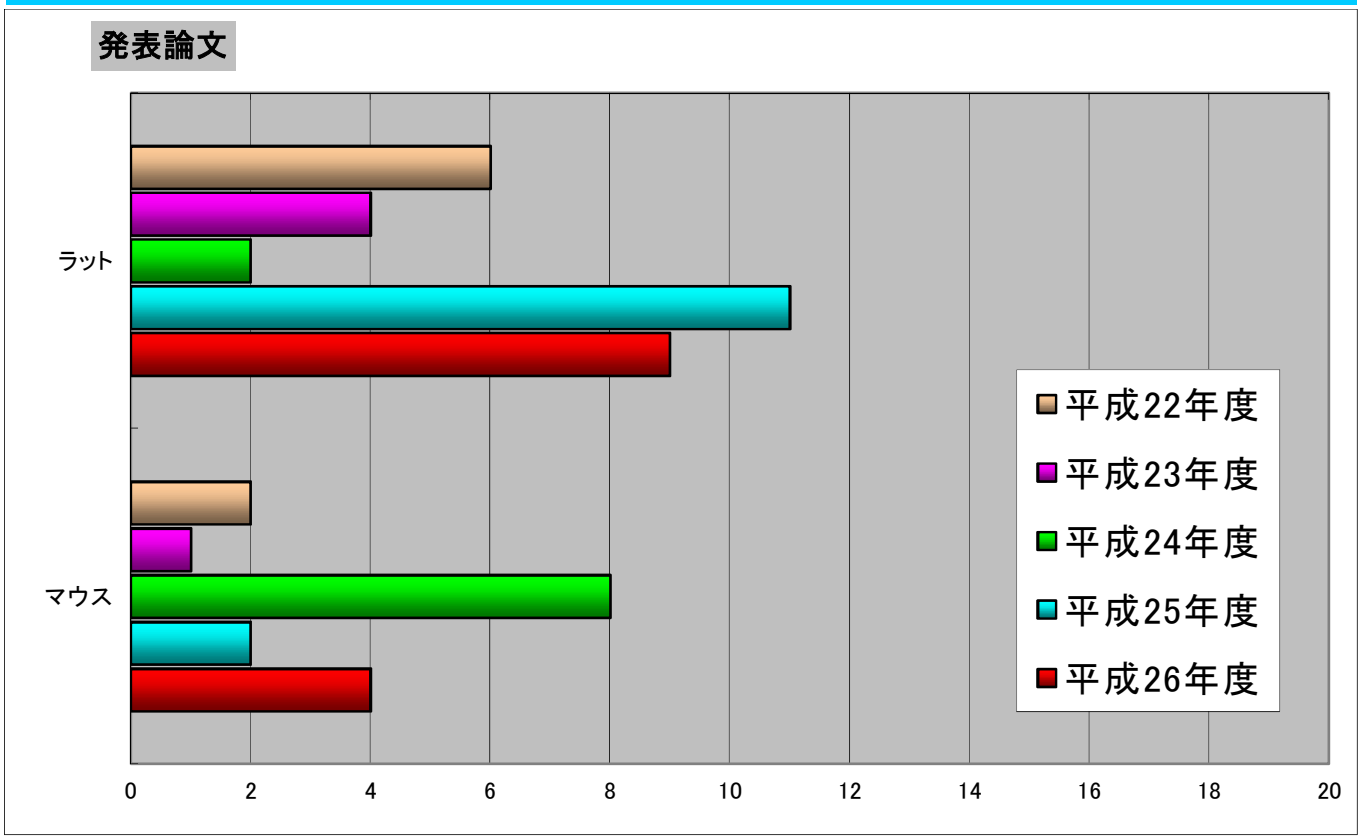
受　講　者　名　簿

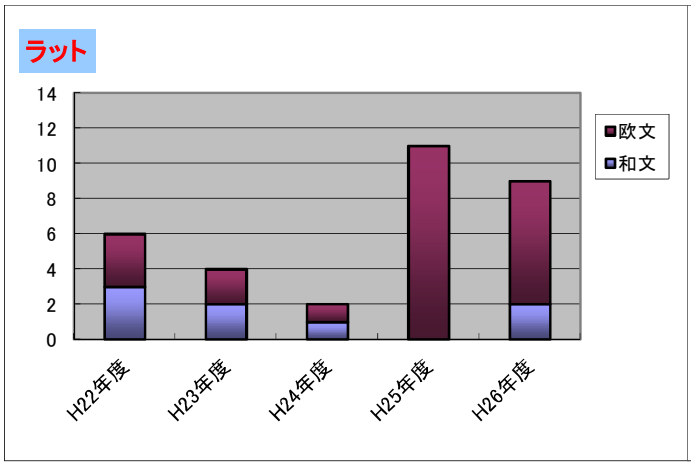
No.	受講者名	所属名(分野名)	講習会名
1	阿南　壽	歯科保存学	第1回使用者講習会(更新対象者)
2	松家　茂樹	生体工学	
3	尾崎　正雄	成育小児歯科学	
4	稲井　哲一郎	機能構造学	
5	日髙　真純	分子機能制御学	
6	岡部　幸司	細胞生理学	
7	早川　浩	生化学	
8	泉　利雄	歯科保存学	
9	今吉　理恵子	感染生物学	
10	利谷　幸治	口腔外科学	
11	鍛冶屋　浩	細胞生理学	
12	森　南奈	歯周病学	
13	篠崎　陽介	冠橋義歯学	
14	堤　貴司	有床義歯学	
15	藤兼　亮輔	分子機能制御学	
16	内山　貴誠	矯正歯科学	
17	山内　由宣	矯正歯科学	
18	長谷　英明	有床義歯学	
19	山口　雄一郎	口腔インプラント学	
20	柳　東	口腔インプラント学	以上20名
21	加藤　智崇	高齢者歯科学	第2回使用者講習会(新規対象者)
22	山野　貴史	耳鼻咽喉科学	
23	萩尾　佳那子	総合歯科学	
24	山口　真広	高齢者歯科学	
25	中山　英明	歯科保存学	
26	有田　晴一	歯周病学	
27	宮口　直之	口腔インプラント学	
28	松本　彩子	口腔インプラント学	
29	緒方　佳代子	成育小児歯科学	
30	田崎　園子	障害者歯科学	
31	高良　憲洋	障害者歯科学	
32	石井　太郎	矯正歯科学	
33	松田　裕子	矯正歯科学	
34	森　紘一郎	口腔外科学	
35	田中　文恵	口腔外科学	
36	田中　喜太郎	分子機能制御学	
37	福地　浩文	総合歯科学	以上17名
38	山崎　純	分子機能制御学	第3回使用者講習会(更新対象者)
39	岡村　和彦	病態構造学	
40	加地　千晶	障害者歯科学	
41	秦　省三郎	矯正歯科学	以上4名
42	森田　浩光	総合歯科学	第4回使用者講習会(新規対象者)　1名
43	徳本　正憲	内科学	第5回使用者講習会(更新対象者)　1名
44	金子　高士	口腔医療センター	第6回使用者講習会(新規対象者)
45	松崎　英津子	歯科保存学	
46	岡田　芙実子	口腔医療センター	
47	國廣　真未	有床義歯学	
48	猿田　陽平	有床義歯学	
49	Luo gang	成育小児歯科学	以上6名

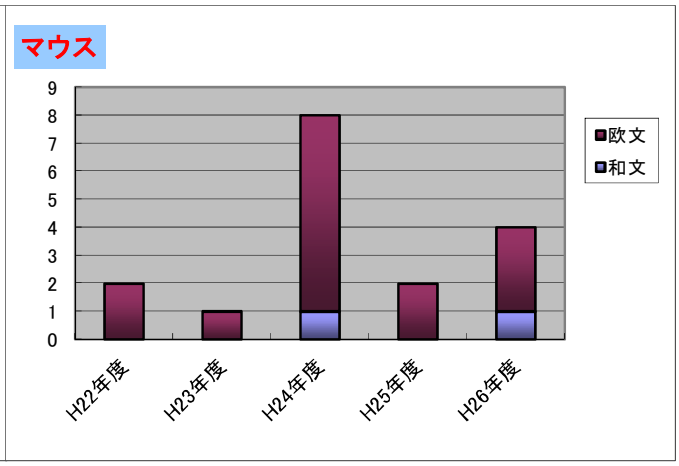
過去5年間の使用者講習会の受講者数



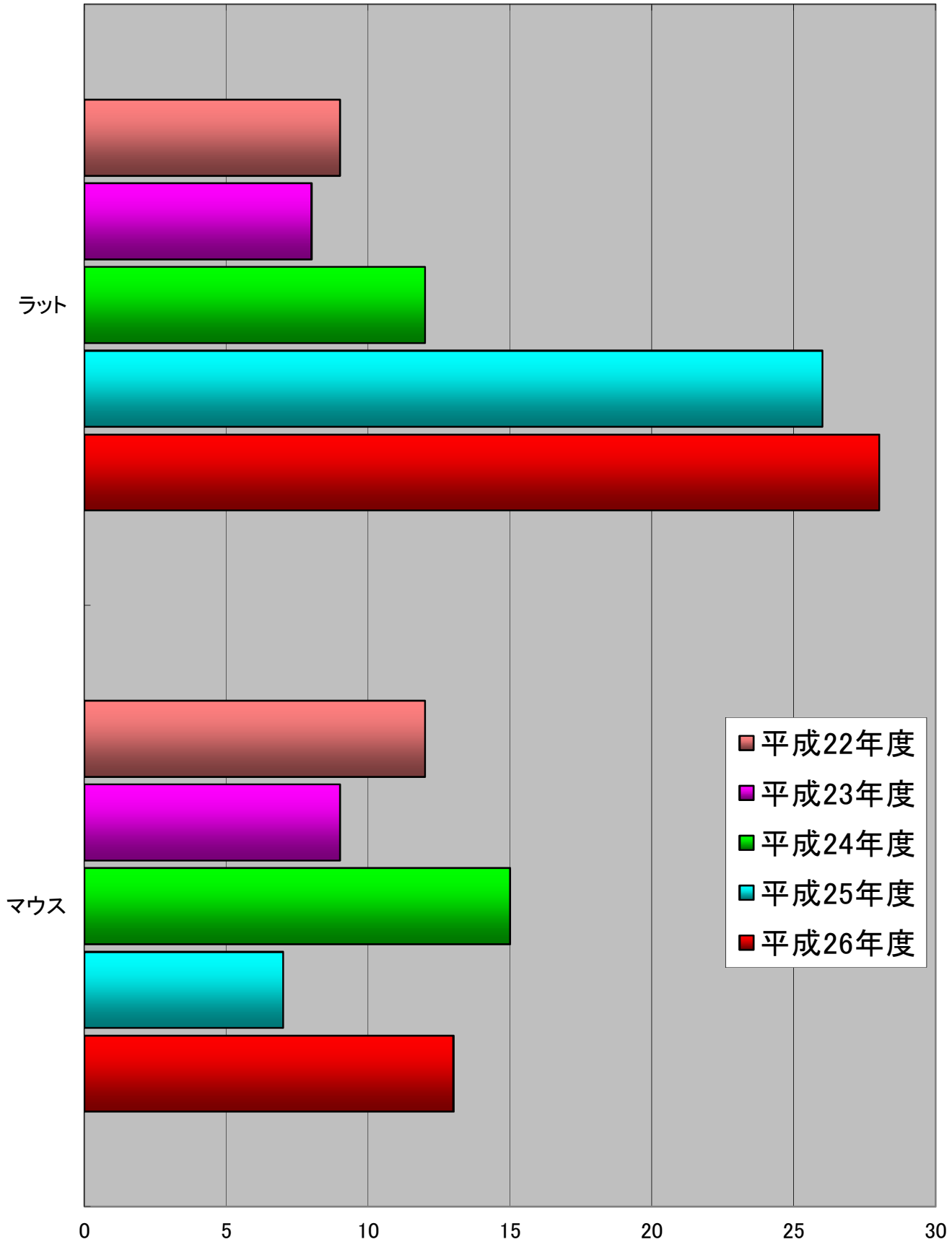
動物を使用した過去5年間の年度別研究業績







学会発表



平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）
動物を使用した研究業績

発表論文

ラット

1） Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promoters bone deposition
T. Yanagi, H. Kajiya, M. Kawaguchi, H. Kido, T. Fukushima

2） Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced *in-vitro* and *in-vivo* osteoregenerative potential
Yuichiro Yamaguchi, Jun Ohno, Ayako Sato,Hirofumi Kido, Tadao Fukushima
BMC Biotechnology　14:105,2014　　2014年12月 6 日

3） Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced *in-vitro* and *in-vivo* osteoregenerative potential
Yuichiro Yamaguchi, Jun Ohno, Ayako Sato,Hirofumi Kido, Tadao Fukushima
BMC Biotechnology Manuscript ID 1768575952141900 DOI 10.1186/s12896-014-0105-9

4） Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects
Yanagi T, Kajiya H, Kawaguchi M, Kido H, Fukushima T
Journal of Biomaterials Applications　　2015, Vol. 29(8) 1109–1118

5） Histological evaluation of the effects of Emdogain gel on injured root apex in rats：
Matsumoto N, Minakami M, Hatakeyama J, Haruna C, Morotomi T, Izumi T, Anan H.
J Endod 2014;40：1989-1994.

6） Histological evaluation of the effects of Emdogain gel on injured root apex in rats: Noriyoshi Matsumoto, Masahiko Minakami, Junko Hatakeyama, Chieko Haruna, Takahiko Morotomi, Toshio Izumi, Hisashi Anan.　Journal of Endodontics; 2014 Dec;40(12):1989-94.

7） Histologic evaluation of the effects of Emdogain gel on injured root apex in rats.
Matsumoto N1, Minakami M2, Hatakeyama J2, Haruna C2, Morotomi T3, Izumi T2, Anan H2.
J Endod. 2014 40(12):1989-94

8） 破壊されたラット根尖孔でのセメント質形成に及ぼすEmgogain®gelの効果の解明
松本典祥, 水上正彦, 春名千英子, 諸冨孝彦, 泉利雄, 阿南壽
日本歯内療法学会雑誌　第34巻 第1号 P22～28　2013.

9） ストロンチウム含有試作生体活性ガラスの骨形成能の病理組織学的検討
泉　利雄、丸田道人、板家圭祐、水上正彦、松本典祥、畠山純子、中山英明、松家茂樹、阿南　壽
日歯保誌2014　57 (6)　492-501

マウス

1） Photothermal stress triggered by near-infrared-irradiated carbon nanotubes up-regulates osteogenesis and mineral deposition in tooth extracted sockets. Int J Hyperthermia 31: 635-642. 2015.
H. Kajiya, Y. Katsumata, M. Sasaki, T. Tsutsumi, M. Kawaguchi, T. Fukushima

2） Accelerated osteogenic differentiation and bone formation on zirconia with surface grooves created　with fiber laser irradiation.
Taniguchi Y , Kakura K , Yamamoto K, Kido H, Yamazaki J
Clinical Implant Dentistry and Related Research 2015

3） Expression of toll-like receptor 2 in glomerular endothelial cells and promotion of diabetic nephropathy by Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide.
Sawa Y, Takata S, Hatakeyama Y, Ishikawa H, Tsuruga E.
PLOS ONE (2014) e97165

4） Leucine Rich Amelogenin Peptideによる軟骨形成の誘導
畠山 純子, 畠山 雄次, 松本 典祥, 春名 千英子, 諸冨 孝彦, 泉 利雄, 沢 禎彦, 笹野 泰之, 阿南 壽

日本歯科保存学雑誌 2013; 56(6): 560-569

学会発表

ラット

1) Effects of bone regeneration on mesenchymal stem cells in spheroid culture
Yuichiro Yamaguchi, Jun Ohno,Ayako Sato, Ayako Matsumoto, Naoyuki Miyaguchi, Hirofumi Kido, Tadao Fukushima
The 9th Scientific Meeting of the Asian Academy of Osseointegration (AAO)　札幌市　2014年7月4日

2) Osteogenic Evaluation of DNA/Protamine Complex in Disease Model Rats
Tsukasa Y ,Minoru K,Yosuke S, Hironobu S, Hirofumi K, Tadao F
The 9th Scientific meeting of AAO　札幌市 2014.7.4-5

3) Comparison of titanium and zirconia dental implants:evaluation of peri-omplant tissue response.
K.Kakura,Y.Taniguchi,K.Yasuno,M.Matsuura,H.Kido
ICOIＸＸＸＩ　東京 2014.10.3-5

4) An establishment of platform switching model rat
Nemoto T, Tsuzuki T, Tsutsumi T, Matsuura T, Kido H
J Japan Society Oral Implant　(Suppl) 27, p283, 2014

5) The effect of aging on extracellular matrix expression in murine periodontal ligament cells
Tsuzuki T, Kajiya H, Goto KT, Tsutsumi T, Okabe K
The 32nd Annual Meeting of Japanese Society for Bone and Mineral Research　(Suppl) p268, 2014

6) ラット皮膚創傷治癒モデルにおいてケラチノサイト由来の潜在型TGF-β1が筋線維芽細胞への分化誘導を促進する.
秦省三郎、山﨑純、梶井貴史、石川博之.
第38回日本口蓋裂学会学術集会. H26年5月29-30日. (北海道)

7) Sr含 有生体活性ガラスの骨形成能の病理組織学的検索
板家圭祐，泉　利雄，水上正彦，松本典祥，畠山純子，　中山英明，阿南　壽
2014年　6月19-20日　第140回日本歯科保存学会　春季学術大会　滋賀

8) 破壊されたラット根尖孔でのセメント質形成に及ぼすEmdogain®gelの効果の解明
松本　典祥、水上　正彦、中山　英明、畠山　純子、松﨑　英津子、泉　利雄、阿南　壽
第14回日本外傷歯学会、口演。平成26年7月 27日。

9) CNTゲルディスクを用いた温熱付加による骨再生の効果
柳 束,﨑 陽介，川口 稔,城戸 寛史,福島 忠男
第44回日本口腔インプラント学会 東京　2014.9.12-14

10) ファイバーレーザーを用いた新しいジルコニアインプラントの開発—表面性状が骨芽細胞の分化と周囲組織の反応と骨結合の強さに及ぼす影響
加倉 加恵，安野 貴美恵，谷口 祐介 ，松浦 正朗，城戸 寛史
第44回インプラント学会学術大会 東京　2014.9.12-14

11) 骨髄由来間葉系幹細胞のスフェロイドを用いた骨再生効果促進
山口 雄一郎，大野 純，佐藤 絢子，城戸 寛史，福島 忠男
第44回インプラント学会学術大会 東京　2014.9.12-14

12) 超高分子DNAスキャホールドによるラット頭蓋骨形成能評価
篠崎　陽介，大野　純，松浦　尚志，佐藤　博信，福島　忠男
第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会
9月12日（金）～14日（日）東京

13) ラット皮膚創傷治癒モデルにおいてMMP阻害薬が線維芽細胞から筋線維芽細胞への分化を抑制する.
秦省三郎、岡村和彦、石井太郎、梶井貴史、石川博之、山﨑純.
第56回歯科基礎医学会学術大会・総会　H26年9月25-27日.（福岡）

14) ラット真皮由来三次元細胞培養シートにおける石灰化物形成に対する無機リン酸イオンの効果.
陶山大輝, 秦省三郎, 石川博之, 山﨑純.

第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, H26年9月25-27日.（福岡）

15） 三次元培養シートに包埋したラット皮膚線維芽細胞の石灰化物形成に関わる因子.
陶山大輝, 秦省三郎, 山﨑純, 石川博之.
第73回日本矯正歯科学会大会, H26年10月20-22日.（千葉）

16） PSリポソームと生体活性ガラスを応用した骨欠損修復法の開発(会議録)
松本 典祥, 畠山 純子, 赤尾 瑛一, 泉 健太郎, 西崎 竜司, 中山 英明, 水上 正彦, 泉 利雄, 阿南 壽
日本歯科保存学会 2014年度秋季学術大会（第141回）、2014年10月30-31日（山形市）

17） PSリポソームと生体活性ガラスを応用した骨欠損修復法の開発
松本　典祥、畠山　純子、赤尾　瑛一、泉　健太郎、西崎　竜司、中山　英明、水上　正彦、泉　利雄、阿南　壽
第141回日本歯科保存学会、ポスター展示。平成26年10月31日。

18） 破壊されたラット根尖孔の創傷治癒に及ぼすEmdogain gelの効果の解明
松本　典祥、水上　正彦、中山　英明、畠山　純子、松崎　英津子、泉　利雄、阿南　壽
第4回日本外傷歯学会西日本地方会総会・学術大会、ポスター展示。平成26年11月2日。

19） 有病モデルラットにおけるDNA/プロタミン複合体の骨形成能の評価
柳 束、森 南奈、鍛冶屋 浩、大野 純、城戸　寛史、御手洗 誠、早川　徹、福島 忠男
第36回日本バイオマテリアル学会 船越市　2014.11.17-18

20） 骨髄由来間葉系幹細胞スフェロイドを用いたラット頭蓋骨骨欠損部位における骨再生効果の促進
山口　雄一郎,大野　純,宮口 直之,城戸 寛史,福島 忠男
第36回日本バイオマテリアル学会大会　船堀市
2014年11月17日、11月18日

21） インプラント周囲欠損部へのDNA/プロタミン複合体の骨形成能
加倉 加恵、柳 束、谷口 祐介、城戸 寛史
第18回日本顎顔面インプラント学会　出雲市　2014.11.29-30

22） インプラント周囲欠損部へのDNA/プロタミン複合体の骨形成能
加倉 加恵、柳 束、谷口 祐介、城戸 寛史
第18回日本顎顔面インプラント学会 出雲市　2014.11.29-30

23） Sr含 有生体活性ガラスの骨形成能の病理組織学的検索
泉　利雄，板家圭祐，水上正彦，中山英明，松本典祥，畠山純 子，阿南　壽
2014年12-13日　第35回日本歯内療法学会学術大会　新潟

24） スフェロイド化間葉系幹細胞のAutophagy発現
宮口　直之、大野　純、山口　雄一郎、佐藤　絢子、城戸　寛史、福島　忠男
第41回福岡歯科大学学会総会　福岡市 2014.12.14

25） ラット頭蓋骨骨欠損モデルにおける間葉系幹細胞スフェロイドを用いた骨再生効果
山口 雄一郎, 大野 純, 佐藤 絢子, 宮口 直之, 城戸 寛史, 福島 忠男
第41回福岡歯科大学学会総会　福岡市 2014.12.14

26） 脱分化脂肪細胞(DFAT)のスフェロイド形態における骨分化能の評価
柳 束, 鍛冶屋　浩, 森 南奈　松本 彩子, 城戸 寛史, 風間 智彦,松本 太郎, 福島 忠男
第41回福岡歯科大学学会総会　福岡市　2014.12.14

27） ラット頭蓋骨欠損モデルにおけるDNAディスクの骨形成能の評価
佐藤 絢子,大野　純,篠﨑 陽介,城戸 寛史,福島 忠男
第14回日本再生医療学会 2015.3.19-21

28） カーボンナノチューブ（CNT）の発熱特性を利用した温熱付加による骨再生促進効果
柳 束、鍛冶屋 浩、川口　稔、勝俣　由里、松本　彩子、城戸　寛史、福島　忠男
第41回日本再生医療学会総会

マウス

1） Severe periodontal disease exacerbate Diabetic Nephropathy through Toll-like receptor(TLR)2 and TLR
S Takata, H Ishikawa, Y Sawa.
第57回　春季日本歯周病学会　H26年5月23日.（岐阜）

2） Promotion of nephropathy by Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide in diabetic kidney.
Y. SAWA, S. TAKATA, H. ISHIKAWA, Y. HATAKEYAMA, E. TSURUGA.
92nd General Session & Exhibition of the IADR Cape Town, South Africa 2014 6/25-28

3） Promotion of diabetic nephropathy by Porphyromonas gingivalis LPS
Shunsuke Takata, Koichiro Kajiwara, Hiroyuki Ishikawa, Yoshihiko Sawa
第62回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会　H26年12月4～5日（大阪）

4） 糖尿病マウス腎糸球体におけるTLR2/4とLPS誘導性サイトカインの発現 .
髙田俊輔, 梶原弘一郎, 石川博之, 沢　禎彦.
日本顕微鏡学会 第70回記念学術講演会　H26年5月11～13日（千葉）

5） エナメル芽細胞におけるLeucine-rich Amelogenin Peptideの局在
畠山 純子, 畠山 雄次, 松本 典祥, 泉 利雄, 沢 禎彦, 笹野 泰之, 阿南 壽
日本歯科保存学会 2014年度春季学術大会（第140回）、H26年6月19-20日（大津市）

6） メカニカルストレスによる歯根膜組織のコラーゲン産生能の加齢による変化
都築　尊、鍛治屋　浩、後藤加寿子、堤　貴司、岡部　幸司.
第32回日本骨代謝学会学術集会　平成26年7月24日-26日（大阪）

7） 歯周病原菌由来TLRリガンドによる糖尿病性腎症の促進.
髙田俊輔、梶原弘一郎、石川博之、沢禎彦.
第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, H26年9月25-27日.（福岡）

8） アレルギー反応に関連した新しいシグナル分子の同定とその機能解析.
橋本麻利江, 永尾潤一, 田﨑園子, 今吉理恵子, 長 環, 湯浅賢治, 田中芳彦
第56回歯科基礎医学会学術大会・総会. 福岡, 9月25-27日（26日）, 2014

9） 免疫応答を誘導する歯周病原細菌の抗原決定基の探索.
今吉理恵子, 田﨑園子, 橋本麻利江, 永尾潤一, 長 環, 田中芳彦.
第56回歯科基礎医学会学術大会・総会. 福岡, 9月25-27日（26日）, 2014

10） Porphyromonas gingivalis由来LPSは腎糸球体のTLR2/4を介して糖尿病性腎症を促進する.
髙田俊輔、梶原弘一郎、沢禎彦、石川博之.
第73回日本矯正歯科学会大会, H26年10月20-22日.（千葉: 幕張メッセ）

11） 歯周病原菌由来LPSによるTLRを介した糖尿病性腎症の促進について.
高田俊輔. 梶原弘一郎. 石川博之. 沢 禎彦.
第41回福岡歯科大学学会総会, H26年12月14日.（福岡、福岡歯科大学本館）

12） 「予防口腔医学」からみた口腔感染症における免疫応答.
田中芳彦.
シンポジウム. 第41回福岡歯科大学学会・総会. 福岡, 12月14日, 2014

13） 「脂質異常による破骨細胞への影響」、
大城希美子、永井淳、佐野しおり、森南奈、村上弘、坂上竜資、
第５７回秋季日本歯周病学会、（神戸市）

平成26年度に取得された学位

甲第260号　柳　　東
Photothermal stress triggered by near infrared-irradiated carbon nanotubes promotes bone deposition in rat calvarial defects

甲第262号　高田　俊輔
Expression of toll-like receptor 4 in glomerular endothelial cells under diabetic conditions

甲第263号　山口　雄一郎
Mesenchymal stem cell spheroids exhibit enhanced in-vitro and in-vivo osteoregenerative potential

甲第264号　長岡　良礼
Mevalonates restore zoledronic acid-induced osteoclastogenesis inhibition

アニマルセンター年表（平成26年度）

5月	22日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14001
	28日	第153回管理運営委員会
		第1回使用者会議
		第1回使用者講習会（更新対象者）
		第2回使用者講習会（新規対象者）
	29日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14002
6月	5日	第1回SPF室使用者講習会
	11日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14003
	12日	第2回SPF室使用者講習会
	13日	動物実験委員会（持ち回り審議）・変更　審査番号13039
	17日	オートクレーブ保守点検
	19日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14004
	24日	大学院生講義（実験動物の取扱い）
	26日	第3回SPF室使用者講習会
7月	4日	第3回使用者講習会（新規対象者）
	28日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14005・14006
8月	26日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14007
9月	2日	第4回使用者講習会（新規対象者）
	2日	第5回使用者講習会（更新対象者）
	3日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14008
	9日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14009
	11日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14010
	17日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14011
	19日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14004
	29日	中央監視装置システム更新
	30日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14012・14013 14014・14015・14016
10月	7日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14017・14018
	16日	第39回実験動物慰霊祭
	16日	第6回使用者講習会（新規対象者）
	24日	第4回SPF使用者講習会
	28日	第154回管理運営委員会
11月	11日	オートクレ-ブ保守点検
	12日	オートクレーブ法定検査
12月	3日	給湯ボイラー　ラインポンプ修理
	26日	業務納め
1月	5日	業務始め

	5日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14019
	15日	遺伝子組換え実験室の実地調査
2月	16日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14009
	27日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14020
	23日	吉廣絹代さん（補助職員）採用
3月	4日	動物実験委員会（持ち回り審議）・変更　審査番号12020
	10日	微生物モニタリング検査
	13日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14021
	24日	動物実験委員会（持ち回り審議）・変更　審査番号12008
	26日	動物実験委員会（持ち回り審議）・新規　審査番号14022

会　議　録

動物実験委員会（平成 26 年度）

持ち回り決裁　平成 26 年 5 月 22 日（木）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　１４００１

持ち回り決裁　平成 26 年 5 月 29 日（木）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００２

持ち回り決裁　平成 26 年 6 月 11 日（水）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００３

持ち回り決裁　平成 26 年 6 月 13 日（金）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　１３０３９

持ち回り決裁　平成 26 年 6 月 19 日（木）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００４

持ち回り決裁　平成 26 年 7 月 28 日（月）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００５

２．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００６

持ち回り決裁　平成 26 年 8 月 26 日（火）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００７

持ち回り決裁　平成 26 年 9 月 3 日（水）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００８

持ち回り決裁　平成 26 年 9 月 9 日（火）

〔議題〕１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　１４００９

持ち回り決裁　平成 26 年 9 月 11 日（木）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　１４０１０

持ち回り決裁　平成 26 年 9 月 17 日（水）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４０１１

持ち回り決裁　平成 26 年 9 月 19 日（金）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　１４００４

持ち回り決裁　　平成 26 年 9 月 30 日（火）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１２

２．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１３

３．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１４

４．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１５

５．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１６

持ち回り決裁　　平成 26 年 10 月 7 日（火）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０１７

２．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１４０１８

持ち回り決裁　　平成 27 年 1 月 5 日（月）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１４０１９

持ち回り決裁　　平成 27 年 2 月 16 日（水）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１４００９

持ち回り決裁　　平成 27 年 2 月 27 日（金）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１４０２０

持ち回り決裁　　平成 27 年 3 月 4 日（水）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーC）について　　１２０２０

持ち回り決裁　　平成 2 7 年 3 月 13 日（金）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１４０２１

持ち回り決裁　　平成 27 年 3 月 24 日（火）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１２００８

持ち回り決裁　　平成 27 年 3 月 26 日（木）

〔議題〕　１．動物実験計画の審査（カテゴリーB）について　　１４０２２

会　議　録

管理運営委員会（平成 26 年度）

第 153 回会議　　平成 26 年　5 月 28 日（水）

〔議題〕

1. アニマルセンター関係委員会の委員及び職員の変更について
2. 平成２５年度予算の決算について
3. 平成２６年度予算の配当について
4. 平成２５年度第１回使用者会議の実施結果について
5. 平成２５年度使用者講習会の実施結果について
6. 平成２５年度ＳＰＦ室使用者講習会の実施結果について
7. アニマルセンター年報(２０１３年版)発行について
8. 第３８回実験動物慰霊祭実施結果について
9. 大学院講義の実施結果について
10. 微生物モニタリング検査の実施結果について
11. アニマルセンター２階２０１手術室及び２０２実験室のＰ１Ａ実験室について
12. 動物実験承認期間の遵守について

第 154 回会議　　平成 26 年　10 月 28 日（火）

〔議題〕

1. アニマルセンター緊急時対応マニュアル（大災害対応用）について

会　議　録

使用者会議（平成２６年度）

第１回会議　　平成 26 年　5 月 28 日（水）

〔議題〕　1. 平成２６年度飼育単価・管理経費及び共益費等について

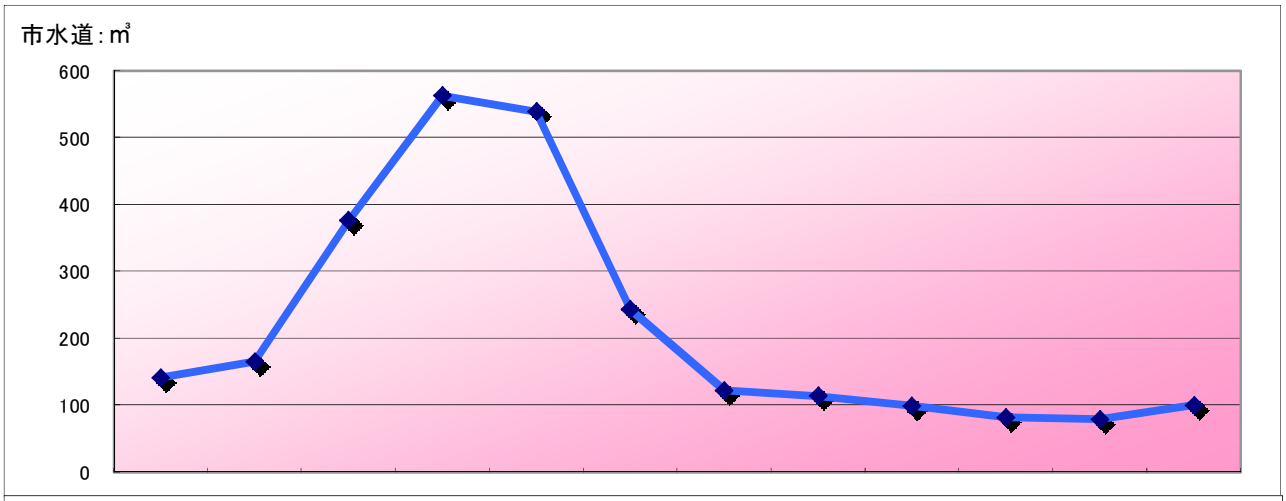
2. 平成２６年度アニマルセンターの年間行事予定について

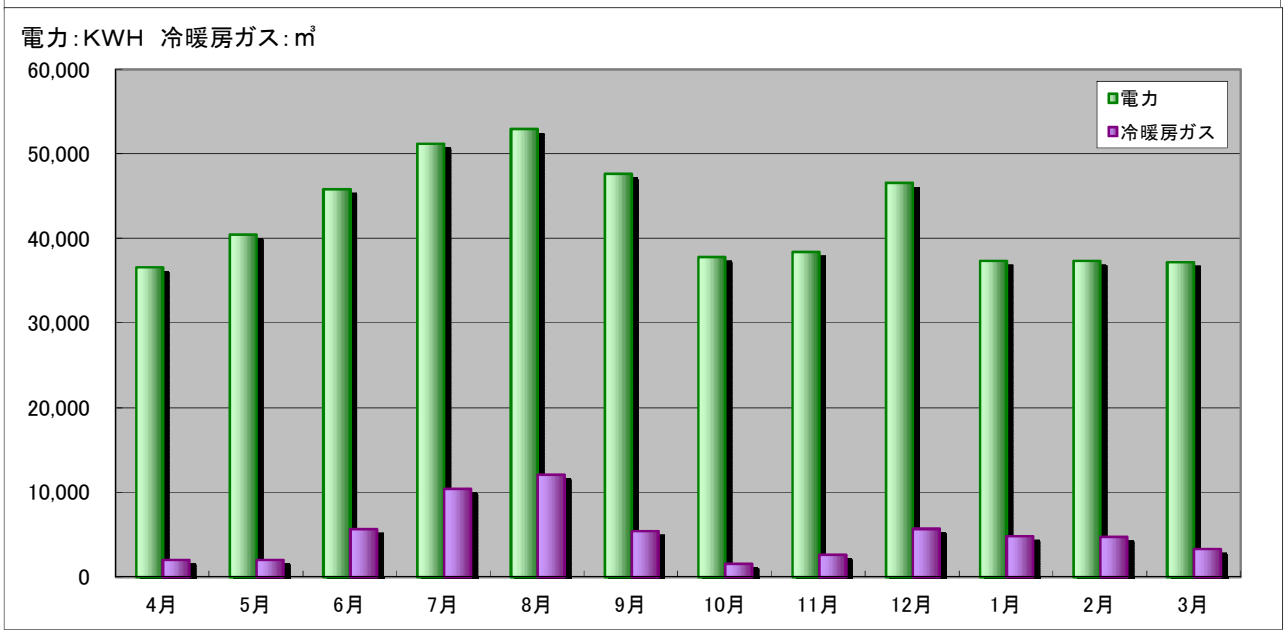
3. アニマルセンター２階２０１手術室及び２０２実験室のPIA実験室について

4. 動物実験承認期間の遵守について

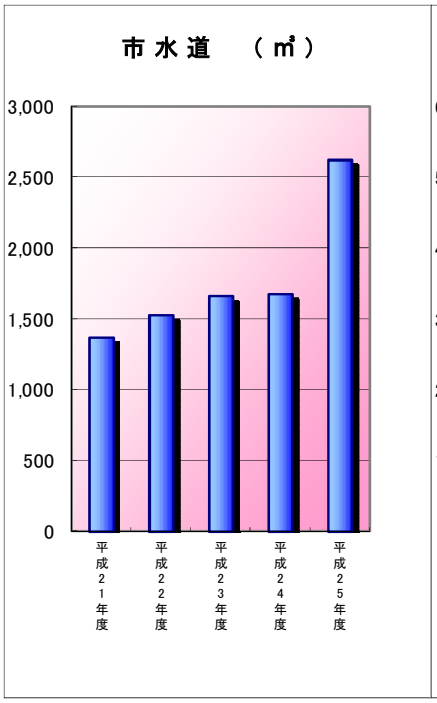
5. その他

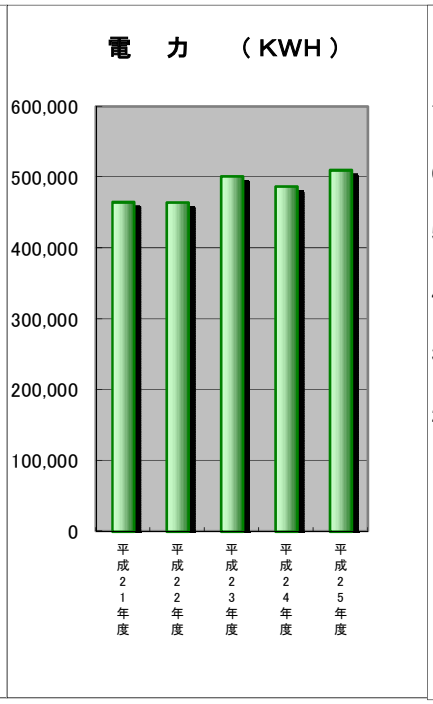
平成26年度　月別光熱水使用量

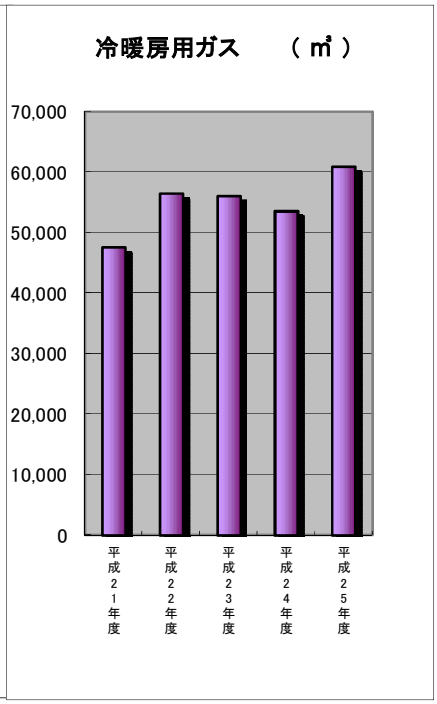




過去5年間の光熱水使用量の推移







福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則

（目的）

第１条　この規則は、「動物の愛護及び管理に関する法律(昭和 48 年 10 月法律第 105 号）」（以下「法」という。）、指針等及びその他の動物実験等に関する法令等に基づき、福岡歯科大学アニマルセンター（以下「センター」という。）で動物実験等を適正に行うため、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

（１）　「動物実験等」とは、動物を教育、学術研究又は生物学的材料採取、その他の科学上の利用に供することをいう。

（２）　「実験動物」とは、動物実験等の利用に供するためセンターで飼養及び保管している哺乳類、鳥類、爬虫類及び両生類に属する動物をいう。

（３）　「動物実験計画」とは、動物実験等を行うために事前に立案する計画をいう。

（４）　「動物実験実施者」とは、動物実験等を実施する者をいう。

（５）　「動物実験責任者」とは、動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を総括する者をいう。

（６）　「管理者」とは、大学長のもとで、実験動物及び施設等を管理する者（センター長）をいう。

（７）　「飼養者」とは、管理者又は動物実験実施者の下で、実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。

（８）　「管理者等」とは、大学長、管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。

（９）　「指針等」とは、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成 18 年４月環境省告示 88 号）」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成 18 年６月文部科学省告示第 71 号）」、「動物の処分方法に関する指針（平成７年７月総理府告示第 40 号）」及び日本学術会議が策定した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成 18 年６月）」をいう。

（動物実験委員会の設置）

第３条　福岡歯科大学・福岡医療短期大学（以下「本学」という。）における動物実験等の適正な実施に関し必要な事項を審査及び審議するために、動物実験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織、運営等に関しては、別に定める。

（動物実験計画の承認及び実験実施結果の把握）

第４条　大学長は、動物実験計画の申請があったとき、委員会の審査を経て、適正な動物実験計画について承認する。また、動物実験計画の実施状況及び結果について報告を受けると共に、必要に応じ動物実験等の実施の適正について、委員会に諮り改善措置を講ずるものとする。

（実験計画書の作成）

第５条　動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの科学的信頼性を確保すると同時に、動物実験等倫理の観点から、次の各号に掲げる事項を踏まえて動物実験計画を立案し、動物実験計画承認申請書を提出して大学長の承認を受けなければならない。

（１）　代替法の利用

科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り実験動物を供する方法に代わり得るものを利用すること等により実験動物を適切に利用することに配慮すること。

（２）　動物の選択

科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される実験動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮すること。この場合において、動物実験等の目的に適した実験動物種の選定、動物実験成績の精度及び再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮する必要がある。

（３）　苦痛の軽減

科学上の利用に必要な限度において、できる限りその実験動物に苦痛を与えない方法によってすること。

（４）　人道的エンドポイント

動物実験責任者は、苦痛度の高い動物実験等、あるいは致死的な動物実験等を行う場合、実験に伴う激しい苦痛から動物を解放するためのエンドポイント（実験打切りの時期）を動物実験計画段階で設定すること。

（動物実験等の実施場所）

第６条　動物実験等の実施は、基本的には、センター内の実験室を用いるものとする。

（安全管理に特に注意を払う必要がある動物実験等）

第７条　物理的、化学的に危険な材料、あるいは病原体等、人の安全・健康もしくは周辺環境に影響を及ぼす危険性のある動物実験等を実施する際には、動物実験実施者及び飼養者の安全確保について特に注意を払わなければならない。

２　飼育環境の汚染により実験動物が傷害を受けることのないよう施設及び設備（以下「施設等」という。）を保持するとともに、実験動物の健康保持に配慮するものとする。

３　遺伝子組換え動物を用いる動物実験等、生態系に影響を及ぼす可能性のある動物実験等を実施する際には、関係法規等に従うものとする。

４　実験の実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努め、侵襲性の高い大規模な存命手術にあたっては、経験等を有する者の指導の下で行うものとする。

（動物実験実施後の報告）

第８条　動物実験責任者は、動物実験等実施後、動物実験結果報告書により、使用動物数、計画変更の有無、実験成果等について、大学長に報告しなければならない。

（施設等）

第９条　動物実験等を実施する際の実験動物の飼養及び保管は、法及び指針等を踏まえ、科学的観点及び動物の愛護の観点から適切に実施するものとする。

２　実験動物の種に応じた飼育設備、衛生設備及び逸走防止のための設備又は構造を有するものとする。

３　飼養保管施設の周辺環境等に悪影響を及ぼさないよう、臭気、騒音、廃棄物の扱い等の環境衛生面に十分配慮がなされているものとする。

（施設等の維持管理）

第 10 条　管理者は、実験動物の適正な飼養保管並びに動物実験等を行う施設等の維持に努めなければならない。

２　管理者は、施設等及び周辺の環境衛生の保全に努めなければならない。

（実験動物の健康及び安全の保持）

第 11 条　管理者、実験実施者及び飼養者は、次の各号に掲げる事項に留意し、実験動物の健康及び安全の保持に努めるものとする。

（1）　実験動物の生理、生態、習性等に応じ、かつ、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、適切に給餌及び給水を行うこと。

（2）　実験目的以外の傷害や疾病から実験動物を守るために、必要な健康管理を行うこと。また、実験動物が傷害を負い又は疾病にかかった場合にあっては、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、適切な治療等を行うこと。

（3）　施設への実験動物の導入に当たっては、実験実施者、飼養者及び他の実験動物の健康を損ねることのないようにするとともに、必要に応じて飼養環境への順化又は順応を図るための措置を講じること。

（4）　異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養及び保管する場合には、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、その組合せを考慮した収容を行うこと。

（5）　実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。

（記録の保存及び報告）

第 12 条　管理者等は、実験動物の飼養及び保管の適正化を図るため、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録管理を適正に行うよう努めるものとする。また、特定危険動物、あるいは特定外来生物等については、マイクロチップ等による識別措置を講じなければならない。

（生活環境の保全）

第 13 条　管理者等は、実験動物の汚物等の適切な処理を行うとともに、施設等を常に清潔にして、微生物等による環境の汚染及び悪臭、害虫等の発生の防止を図ることによって、また、施設等の整備等により騒音の防止を図ることによって、施設等及び施設周辺の生活環境の保全に努めなければならない。

（危害等の防止）

第 14 条　管理者等は、実験動物の飼養及び保管に当たり、次の各号に掲げる実験動物による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めるものとする。

（1）　管理者は、実験動物が逸走しない構造及び強度の施設等を整備する

こと。

（２）　管理者は、実験実施者及び飼養者が実験動物に由来する疾病にかかることを予防するため、必要な健康管理を行うこと。

（３）　管理者は、実験実施者及び飼養者が危険を伴うことなく作業ができる施設等の構造及び飼養又は保管の方法を確保すること。

（４）　管理者は、施設等の日常的な管理及び保守点検並びに定期的な巡回等により、飼養又は保管をする実験動物の数及び状態の確認が行われるようにすること。

（５）　実験実施者及び飼養者は、相互に実験動物による危害の発生の防止に必要な情報の提供等を行うよう努めること。

（６）　管理者等は、実験動物の飼養及び保管並びに動物実験等に関係のない者が実験動物に接することのないよう必要な措置を講じること。

（逸走時の対応）

第 15 条　管理者等は、実験動物が保管設備等から逸走しないよう必要な措置を講じなければならない。また、管理者は、実験動物が逸走した場合の捕獲等の措置についてあらかじめ定め、逸走時の人への危害及び環境保全上の問題等の発生の防止に努めるとともに、人に危害を加える等のおそれがある実験動物が施設外に逸走した場合には、速やかに関係機関への連絡を行うものとする。

（緊急時の対応）

第 16 条　管理者は、地震、火災等の緊急時に採るべき措置に関する計画をあらかじめ作成し、関係者に周知を図るものとする。管理者等は、緊急事態が発生したときは、速やかに、実験動物の保護及び実験動物の逸走による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めなければならない。

（譲渡及び輸送の方法）

第 17 条　管理者等は、実験動物の譲渡にあたっては、その生理、生態、習性等、適正な飼養及び保管の方法、感染性の疾病等に関する情報を提供し、譲り受ける者に対する説明責任を果たさなければならない。

２　実験動物の輸送を行う場合には、次の各号に掲げる事項に留意し、実験動物の健康及び安全の確保並びに実験動物による人への危害等の発生の防止に努めなければならない。

（１）　なるべく短時間に輸送できる方法を採ること等により、実験動物

の疲労及び苦痛をできるだけ小さくすること。

（２）　輸送中の実験動物には必要に応じて適切な給餌及び給水を行うとともに、輸送に用いる車両等を換気等により適切な温度に維持すること。

（３）　実験動物の生理、生態、習性等を考慮の上、適切に区分して輸送するとともに、輸送に用いる車両、容器等は、実験動物の健康及び安全を確保し並びに実験動物の逸走を防止するために必要な規模、構造等のものを選定すること。

（４）　実験動物が保有する微生物、実験動物の汚物等により環境が汚染されることを防止するために必要な措置を講じること。

（人獣共通感染症に係る知識の習得等）

第 18 条　管理者等は、人獣共通感染症に関する十分な知識の習得及び情報の収集に努め、人獣共通感染症の発生時において必要な措置を迅速に講じることができるよう、公衆衛生機関等との連絡体制の整備に努るものとする。

（教育訓練の実施）

第 19 条　管理者は、動物実験実施者及び飼養者に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な次の各号に掲げる事項について、教育訓練を実施する。また、動物実験実施者等の資質向上を図るために必要な措置を講じなければならない。

（１）　関連法令、条例、指針等及び本学の動物実験等に関する諸規則に関すること

（２）　動物実験等及び実験動物の取扱いに関すること

（３）　実験動物の飼養及び保管に関すること

（４）　安全確保、安全管理に関すること

（５）　施設等の利用に関すること

（６）　その他、適切な動物実験等の実施に関すること

２　管理者は、教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者名を記録し保存するものとする。

（指針等への適合性に関する自己点検・評価及び検証）

第 20 条　大学長は、動物実験等の実施に関する透明性を確保するため、定期的に、指針等への適合性に関し、自ら点検及び評価を実施するとともに、当該点検及び評価の結果について、学外者による検証を実施することに努

めなければならない。

（情報公開）

第 21 条　本学における動物実験等に関する情報を、毎年１回、年報の配付その他の適切な方法により公表するものとする。

附　則

この指針は、平成２年６月２６日から適用される。

（平成２年６月１日から施行する）

附　則

この改正指針は、平成９年８月１日から施行する。

附　則

この改正指針は、平成13年４月20日から施行し、平成13年４月１日から適用する。

附　則

この改正指針は、平成16年８月18日から施行し、平成16年８月18日から適用する。

附　則

1　福岡歯科大学動物実験指針（平成16年８月18日施行）を福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則に改正する。

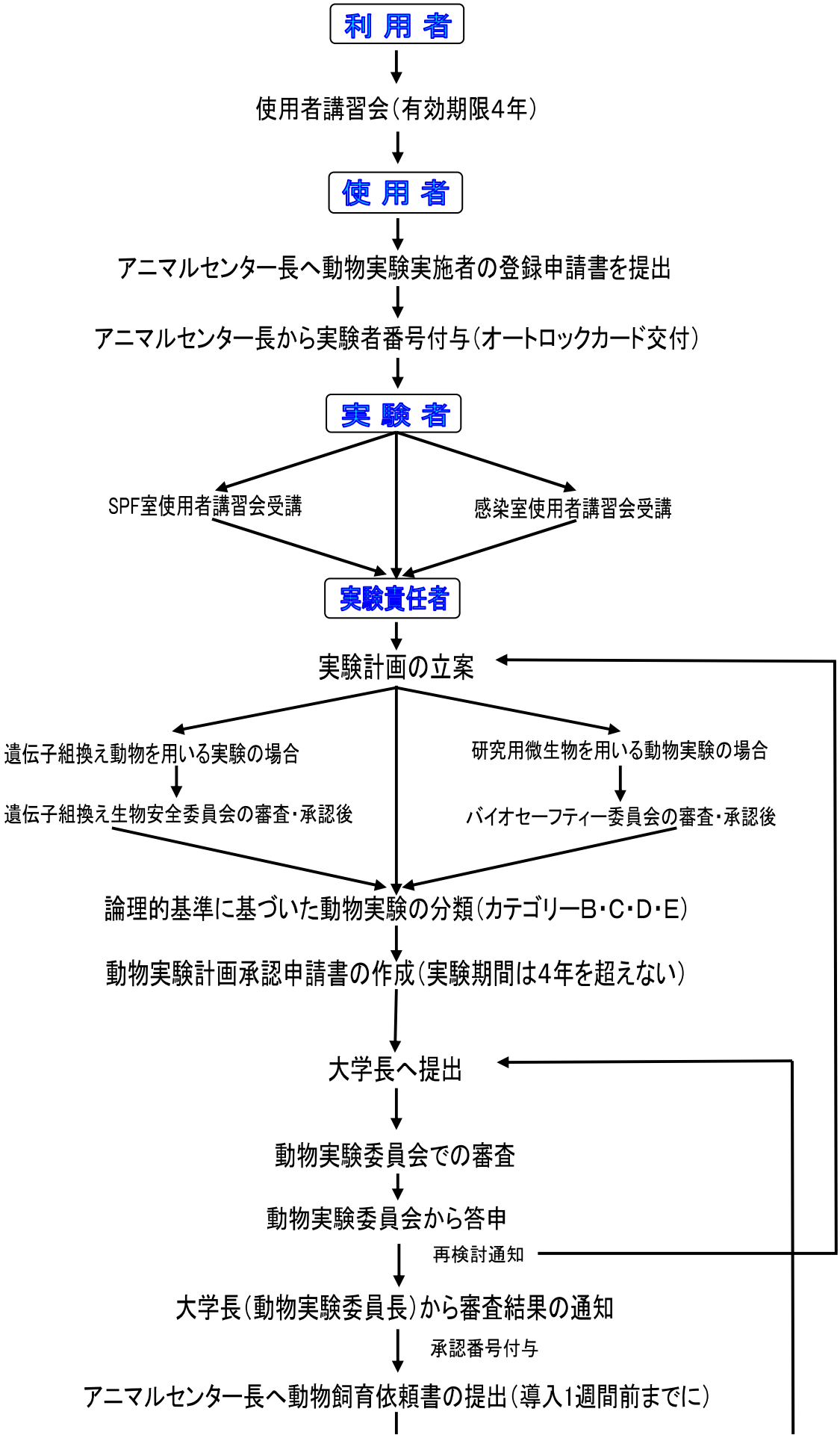
2　この改正規則は、平成17年３月15日から施行し、平成17年３月15日から適用する。

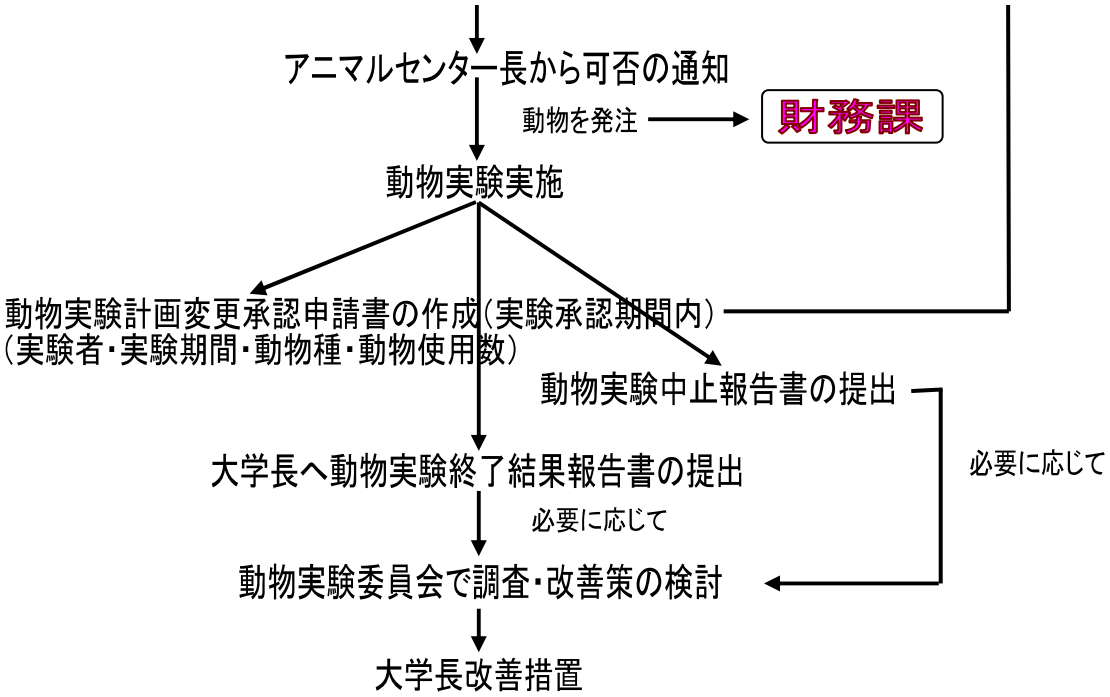
附　則

1　福岡歯科大学アニマルセンター使用規則（平成18年３月24日施行）については、これを廃止する。

2　この改正規則は、平成19年７月31日から施行し、平成19年７月31日から適用する。

動物実験手順の概略図


利 用 者
使用者講習会（有効期限4年）
使 用 者
アニマルセンター長へ動物実験実施者の登録申請書を提出
アニマルセンター長から実験者番号付与（オートロックカード交付）
実 験 者
SPF室使用者講習会受講
感染室使用者講習会受講
実験責任者
実験計画の立案
遺伝子組換え動物を用いる実験の場合
遺伝子組換え生物安全委員会の審査・承認後
研究用微生物を用いる動物実験の場合
バイオセーフティー委員会の審査・承認後
論理的基準に基づいた動物実験の分類（カテゴリーB・C・D・E）
動物実験計画承認申請書の作成（実験期間は4年を超えない）
大学長へ提出
動物実験委員会での審査
動物実験委員会から答申
再検討通知
大学長（動物実験委員長）から審査結果の通知
承認番号付与
アニマルセンター長へ動物飼育依頼書の提出（導入1週間前までに）


アニマルセンター長から可否の通知
動物を発注
財務課
動物実験実施
動物実験計画変更承認申請書の作成（実験承認期間内）
（実験者・実験期間・動物種・動物使用数）
動物実験中止報告書の提出
必要に応じて
大学長へ動物実験終了結果報告書の提出
必要に応じて
動物実験委員会で調査・改善策の検討
大学長改善措置

動物実験委員会　（平成 26 年４月１日～平成 28 年 3 月 31 日）

委員長（センター長）	日髙　真純	（分子機能制御学　教　授）
副委員長（副長）	泉　利雄	（歯科保存学　准教授）
委　員	早川　浩	（生化学　教　授）
委　員	永嶋　哲也	（医療倫理学　教　授）
委　員	稲井　哲一朗	（機能構造学　教　授）
委　員	石川　博之	（矯正歯科学　教　授）
委　員	川野　庸一	（眼科学　准教授）
委　員	町田　弘幸	（口腔保健学　准教授）
委　員	徳本　正憲	（内科学　准教授）
委　員	今吉　理恵子	（感染生物学　講　師）
委　員	八田　光世	（分子機能制御学　講　師）
委　員	鍛冶屋　浩	（細胞生理学　講　師）
委　員	力丸　哲也	（短大教員　准教授）

以　上　　構成委員　13 名

庶務係	和才　広輝	（アニマルセンター管理事務　係長兼任）

アニマルセンター管理職員（平成 26 年 4 月 1 日 現在）

センター長	日髙　真純	（分子機能制御学　教授）
センター副長	泉　利雄	（歯科保存学　准教授）
事務職員（係長兼任）	和才　広輝	
技能職員	山下　貴成	
補助職員	松本　富子	
補助職員	霜出　エイ子	
補助職員	渋谷　由香	
補助職員	吉廣　絹代	（平成 27 年 2 月採用）
兼務職員	林　憲久	（施設課技術職員）

アニマルセンター管理運営委員会（平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

委員長（センター長）	日髙　真純	（分子機能制御学　教授）
副委員長（副長）	泉　利雄	（歯科保存学　准教授）
委員	早川　浩	（生化学　教授）
委員	永嶋　哲也	（医療倫理学　教授）
委員	稲井　哲一朗	（機能構造学　教授）
委員	石川　博之	（矯正歯科学　教授）
委員	川野　庸一	（眼科学　准教授）
委員	町田　弘幸	（口腔保健学　准教授）
委員	徳本　正憲	（内科学　准教授）
委員	今吉　理恵子	（感染生物学　講師）
委員	八田　光世	（分子機能制御学　講師）
委員	鍛冶屋　浩	（細胞生理学　講師）
委員	力丸　哲也	（短大教員　准教授）

以上　構成委員　13 名

庶務係	和才　広輝	（アニマルセンター管理事務　係長兼任）

編集後記

前年度の編集後記で、「実験室の整理・整頓・清潔」を励行するようお願いしておりましたが、今年度は、実験室に入ってから、前の使用者が出したゴミや機材が散乱している情景を見かけなくなりました。御協力大変有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

しかしながら大変残念なことに、本年度は9月のモニタリング検査で、SPF飼育室がネズミ大腸蟯虫及び肺パスツレラ陽性と判定されました。これらの微生物は感染した動物を致死させることはありませんが、系統維持動物では陰性である方が良いとされています。現在SPF飼育室の再開を目指し、クリーンアップ作業を行っているところです。今回の微生物の感染経路は判りませんが、国内での発生頻度は頻繁だとされています。今後の再汚染防止のために皆様にお願いしたいのは、今一度基本に立ち返り、①センター搬入時の実験器具機材の消毒、②帽子、マスク、実験衣等の着用、③手指の洗浄・消毒、④各室でのスリッパ履き替え、⑤実験室の開放禁止、⑥動物に接触する際には手袋着用後、エタノール消毒を行う。⑦手袋の廃棄（各実験室のメディボックスに）の各項目を遵守して頂くことです。その他、基本的な感染防止の方策やアニマルセンターの利用手順については、アニマルセンターのホームページにありますので、ぜひ参照して下さい。

来年度、特に問題なく堅調にアニマルセンターが運営され、利用者の皆様が今まで以上により良くアニマルセンターをご利用いただけるよう、運営スタッフ一同努力していきたいと考えておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

（センター副長　泉　利雄）

福岡歯科大学アニマルセンター年報３３号

平成28年　1月発行

編集発行者　福岡歯科大学アニマルセンター　日高　真純
〒814-0193　福岡市早良区田村2丁目15番1号

TEL　(092) 801-0411　(内線161)

FAX　(092) 801-4909